

Margarita & Fumiho の

カナリア刺繍

CALADOS CANARIOS

徳留文穂



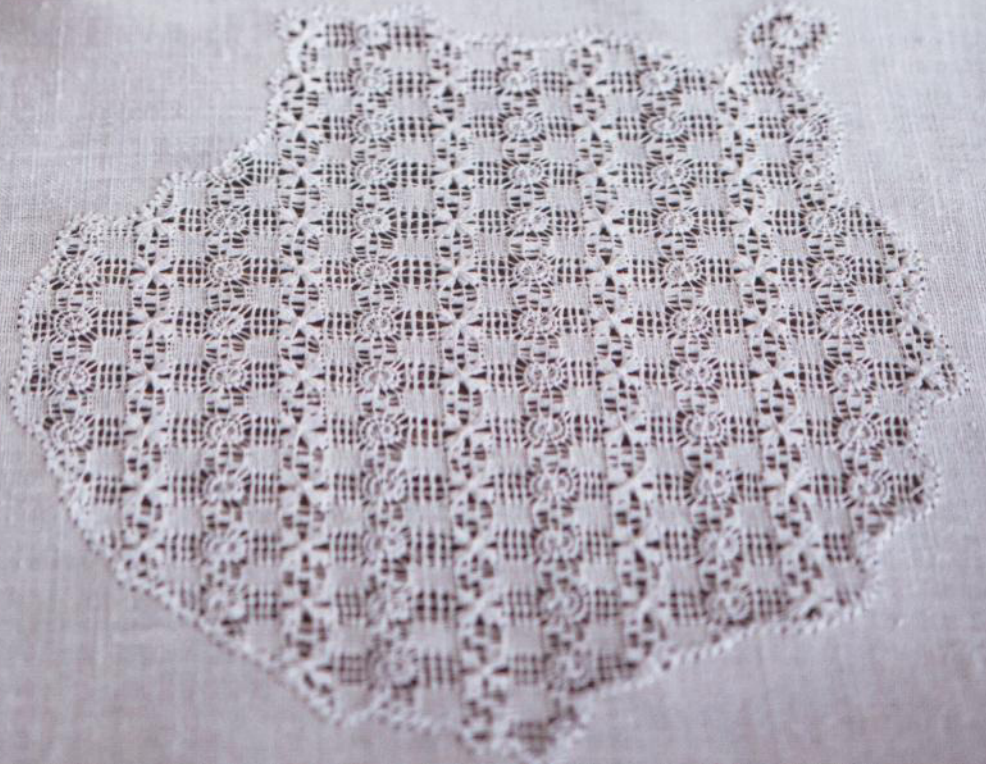
マガジンランド

Margarita & Fumiho の

カナリア刺繍

CALADOS CANARIOS

徳留文穂



CONTENTS

カナリア刺繍との出会い…… 4、5

美しいドイリー…… 6～13

カナリア刺繍を贈る…… 14～17

暮らしの中に…… 18～29

ティーナプキンをつくりましょう…… 30～40

素材と用具…… 41～43

かがり方の基礎…… 44～50

作品の図案と作り方…… 51～71



カナリア刺繍は、アフリカ大陸の西岸
西サハラ沖に浮かぶ七つの島、
スペイン領のカナリア諸島に伝わるドロンワークです。

麻布の縦糸と横糸を格子状に抜いて
残した織り糸に刺繍糸を結び付けたり、
交差したりしながら模様を作り出していきます。
織り糸のかがり方によって
美しいモチーフが生み出されるこの伝統的な刺繍は、
民族衣装のブラウスやスカート、
あるいはテーブルクロスやテーパーマットなど、
暮らしの中の身近なものに施され
カナリアの人たちのみならず、
この地を訪れた世界中の人々に親しまれ、
永きにわたって受け継がれています。

徳留文穂



カナリア刺繍との出会い

今から18年前のことになります。

偶然暮らすことになったカナリア諸島の島のひとつ、
グラン・カナリア島でこの島に伝わる「カナリア刺繍」に出会いました。

美しい刺繍の施されたテーブルランナーを島の民芸品店で見つけ、
たちまちそのすばらしさに魅せられてしまいました。

お店の方から、「ここにあるものは全て、島の女性たちが
一つ一つ丹精込めて作っているものだ」と伺いました。

当初は、まさか自分で作品を作る事ができるなんて
考えもしませんでした。が、「機会があれば習ってみたい」という
気持ちが芽生えたことが全ての始まりでした。

幸いにして素晴らしい先生との出会いがあり、
基礎からしっかり丁寧に学ぶ機会に恵まれ、
気がつけば、ますますこの刺繍に対する愛着が深まっていました。

4年間の滞在を経て帰国してからは、このカナリア刺繍を
日本の方々に是非とも知っていただきたいと思って教室を始め、
作品展などを開催しながらその普及に努めています。

カナリアを愛する、カナリアのセニョーラ、
敬愛するマルガリータ・パデーージャ先生に感謝し、
カナリアの風、太陽、海そして朗らかな優しい人々を
思い浮かべながら日々作品を作り続けています。

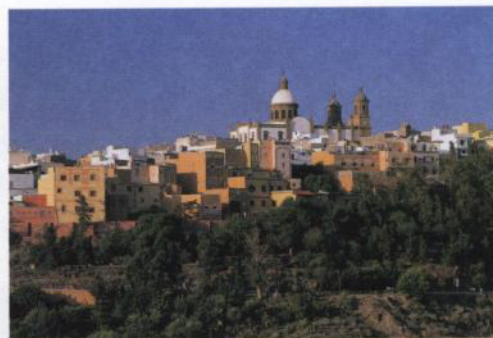
徳留文穂





グラン・カナリア島は北大西洋のカナリア諸島を構成する島のひとつで、スペイン領カナリア諸島州に含まれます。面積は 1560km²、最大都市はラス・パルマス・デ・グラン・カナリア。島には数多くの犬がいたため、インスラ・カヌン(Insula Canum: ラテン語で犬の島)が島名の由来ともいわれています。

Aguimes(アギメス)の
景観。カナリアの青
空に歴史ある石造り
の聖堂が美しい
© スペイン政府観光局



Las Palmas(ラス・パルマス)の大聖堂、サンタアナ教会。グラン・カナリアの人々の象徴的存在
© スペイン政府観光局



グラン・カナリア島の北部、Santa Maria de Guia(サンタマリア・デ・ギア)の町。伝統的なダンスが披露される祭りの様子
© スペイン政府観光局

マルガリータ先生からいただいた
カナリア刺繍の講師認定証



Margarita Padilla Cabrera

マルガリータ・パディージャ・カブレラ女士

グラン・カナリア島生まれ。

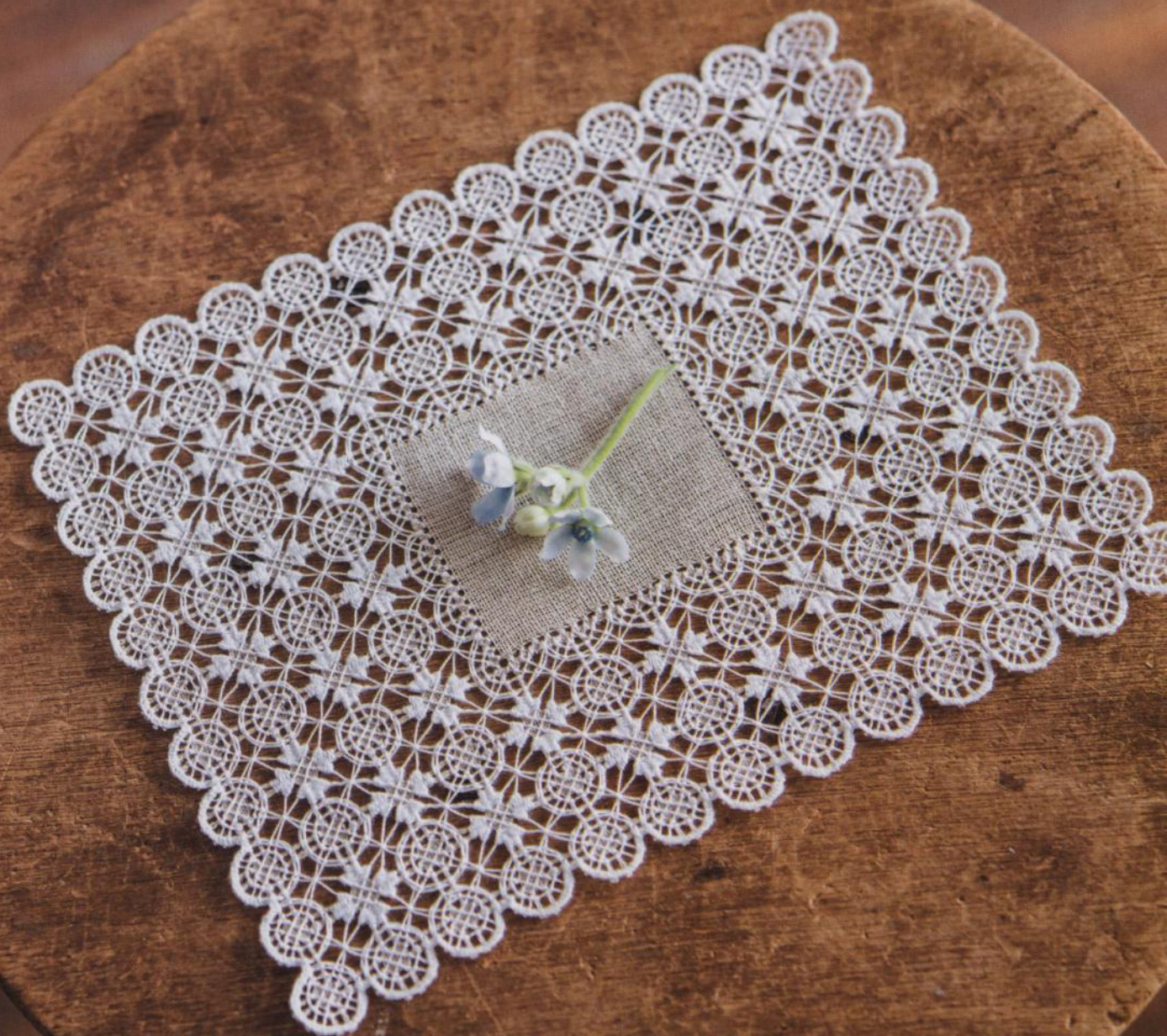
カナリア刺繍をはじめ、手芸を愛好する家庭環境で育つ。かつては島内のカナリア刺繍工房で作品作りに励んでいたが、結婚と同時に家庭に入り、カナリア刺繍の個人教授を始めて現在に至る。一男一孫の良き母であり、優しい祖母でもある。

Ingenio(インヘニオ)にあるカナリア刺繍工房。典型的なカナリア建築様式のパティオで、様々な作品が作られている
© スペイン政府観光局



美しいドイリー

17世紀後半、服地商人Doylyによって考案され、その名がつけられたドイリー。
当初はデザート用の小ナプキンでしたが、
今では卓上を飾る小さな敷き物として様々な場面で使われています。
ここからは、美しい透かし模様で装飾されたカナリア刺繍のドイリーをご覧ください。



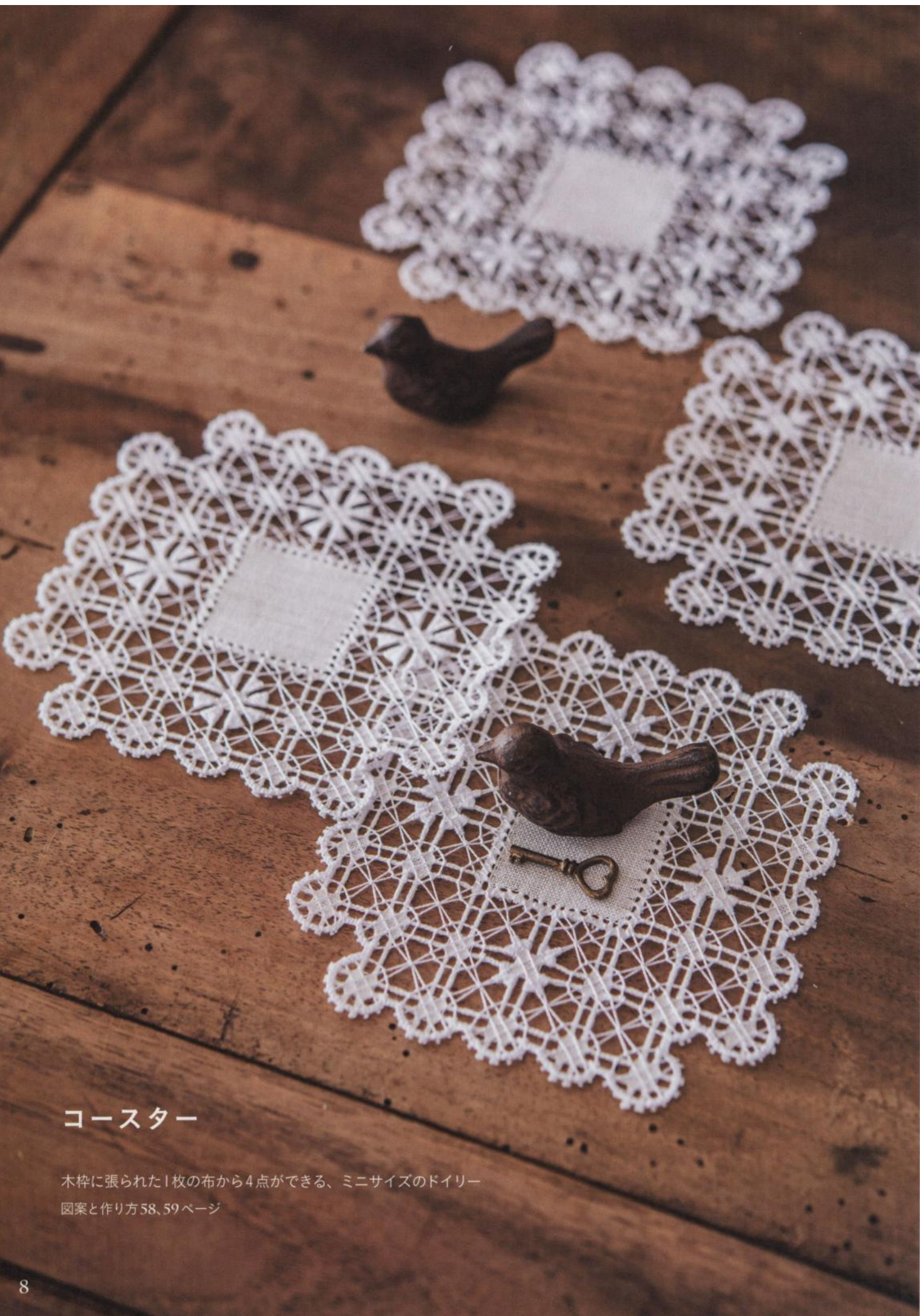
白のドイリー

Redondo doble y flor(スペイン語で二重丸と花)の精緻な連続模様が美しい
図案と作り方 51 ～ 53 ページ



ブルーのドイリー

Lazito(スペイン語でリボン)かがりの斜めラインを活かし、八角形に仕上げました
図案と作り方 54 ~ 57 ページ



コースター

木枠に張られた1枚の布から4点ができる、ミニサイズのドイリー
図案と作り方 58、59 ページ

グラン・カナリアとブルーのドイリー

コーナーをかがったブルーと、
グラン・カナリア島の形にかがり模様を作った白
参考作品



3種のドイリー

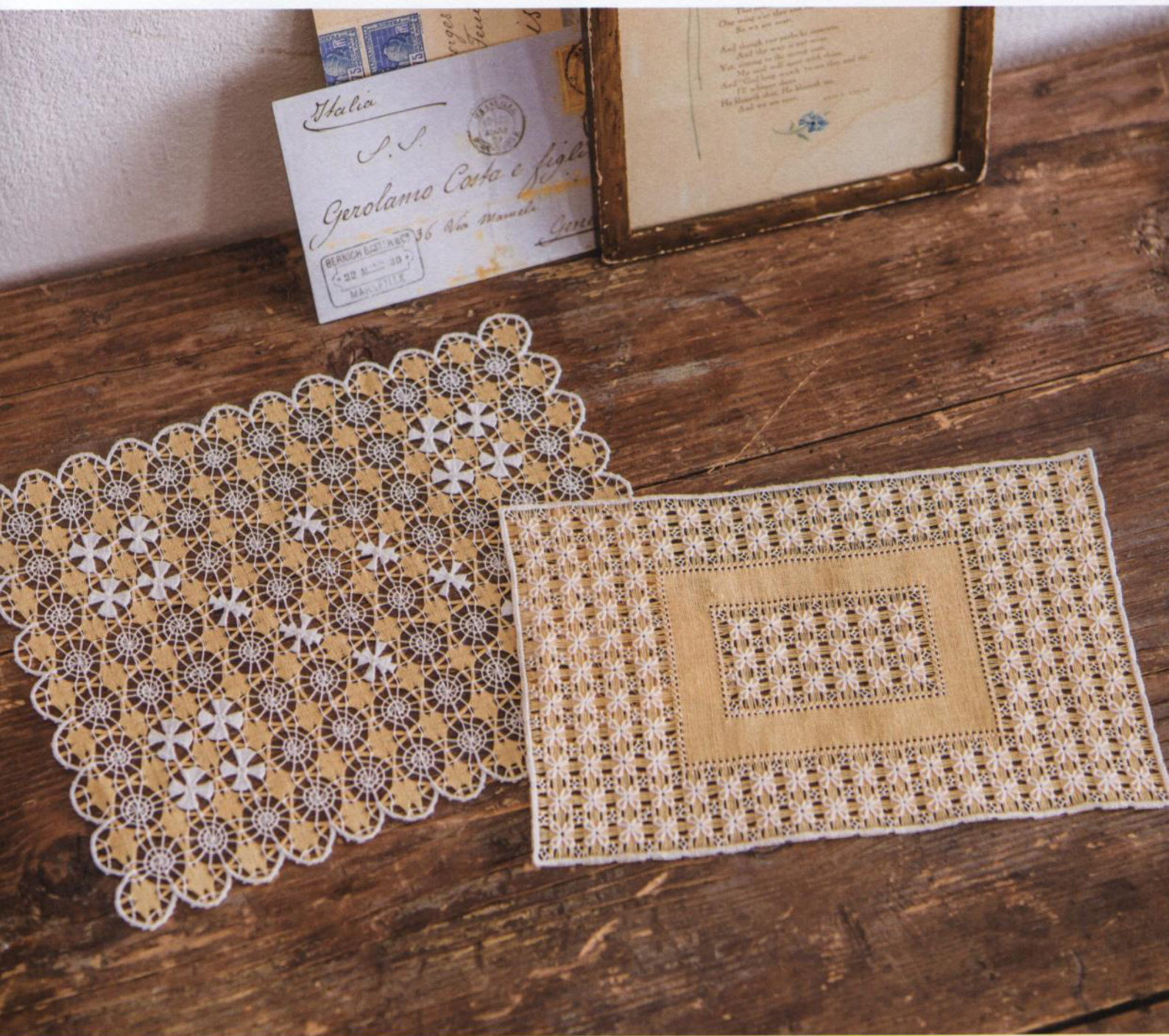
大きな矢羽モチーフ、規則的に並んだ花そして小さな穴かがり。それぞれが特徴のある作品です
参考作品



イエロードイリー

温か味のあるエッグイエローの麻布を用いた個性的な2枚

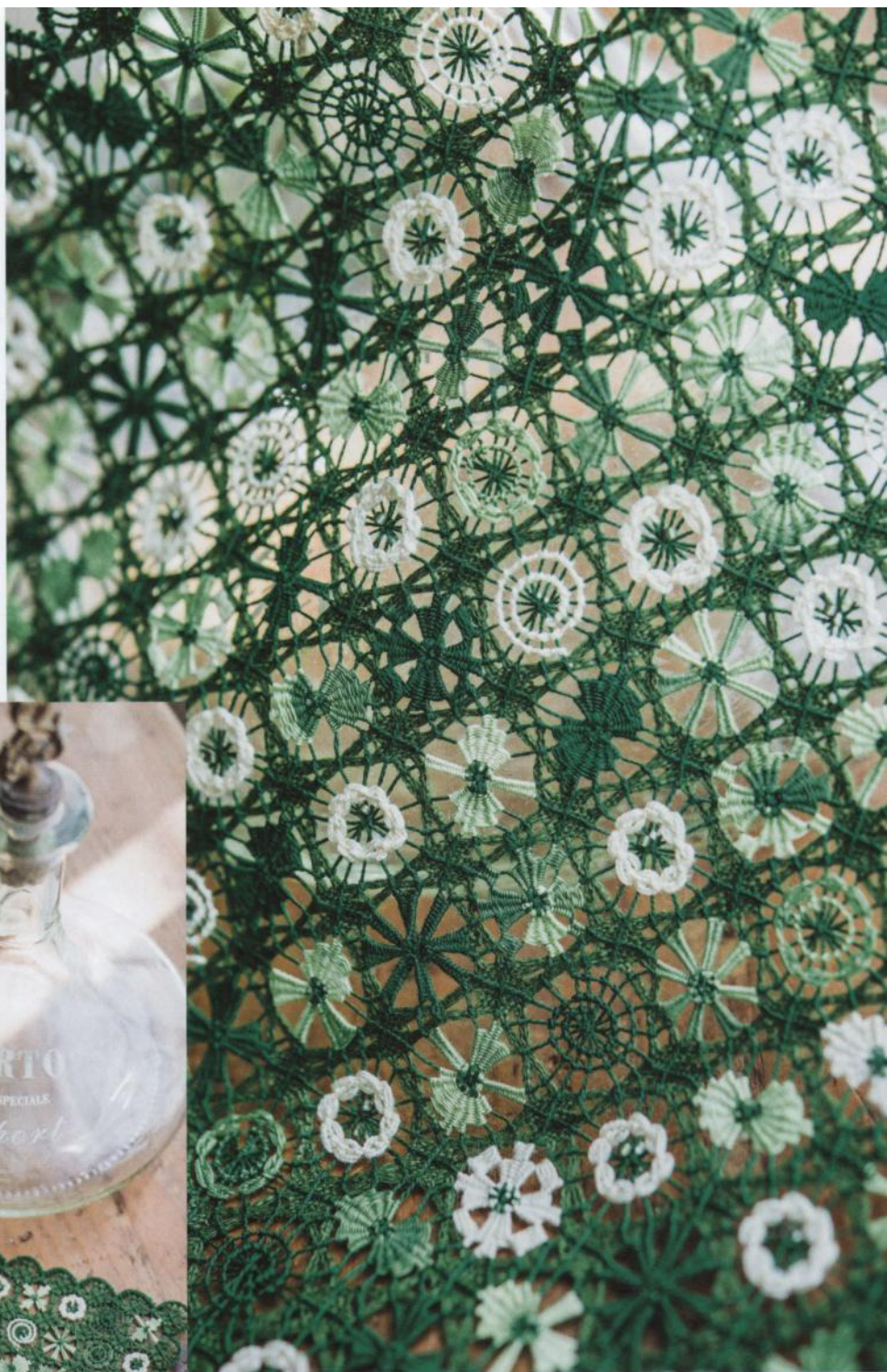
参考作品





赤とグリーンのドイリー

それぞれの布地と同色の段染糸を使って、
手の込んだモチーフで構成した色違いの作品
参考作品



カナリア刺繍を贈る

美しいかがり模様の一針一針に手をかけ
思いを込めてつくるカナリア刺繍の小ものは、
ウエディングセレモニーを控えた、
大切な方へのプレゼントに最適です。

リングピロー

未永い幸せを願って、
繊細な透かしかがりを重ねた手製のリングピローを
図案と作り方60～63ページ



リボン

既製のリネンテープを、
スクエアなかりの連続模様で飾って
参考作品



ポーチ

かがり模様の中心に一粒のビーズを通し、長方形に刺した一枚を二つ折りにしたポーチ
図案と作り方 64、65 ページ



暮らしの中に

テーブルクロス、エプロン、日傘や裁縫道具……

暮らしの中で手にする身近な小ものにカナリア刺繍のエッセンスを
プラスしたら、一日中エレガントな気分で過ごせそう



エプロン

サイドと裾にカナリア刺繍をあしらった

ロング丈エプロンにカナリア刺繍で刺し埋めた
ミニ丈を重ねた贅沢仕様。

ウエストベルトには既製のレーステープを使用しました。

参考作品





テーブルランナー

グリーンの麻布とエクリュのかがり糸のコントラストが美しい一枚。
所々に配置されたFlor(スペイン語で花)モチーフがポイントです
図案と作り方66～69ページ







テーブルクロス

モチーフの中央を菱形にかがらすることで
作り出される、織り糸のウェーブが
特徴的な手の込んだ作品

参考作品





シェルモチーフのテーブルセンター

細い糸で幾重にもかがる、貝殻をイメージした繊細なかがりは、
重なり合う糸の光沢が美しい上級のテクニック

参考作品

日傘

麻地の日傘の織り糸を抜いて、Redondo y flor(スペイン語で丸と花)の連続模様を根気よく刺し連ねます

参考作品





ランプシェード

ニュアンスのある色系で作られた菱形の花モチーフを、淡いグレーのシェードの上下の縁飾りに
参考作品





ピンクッション

ランプシェードの縁飾りと同じモチーフを2サイズにアレンジして、小さな器を彩ります
図案と作り方70、71ページ

ティーナプキンを作しましょう

キュートなピンクの麻地の一角だけに、さりげなくカナリア刺繍をあしらった 18cm×18cmの小さめナプキン。そこには、本誌で紹介している作品に使われている刺繍のほとんどの技法が網羅されています。手始めにこのナプキンを作り、カナリア刺繍のコツをつかみましょう。



ピンクのティーナプキン

いつものティータイムをお洒落なひと時にランクアップしてくれる、素敵なアイテム
作り方31～40ページ

ティーナプキンの作り方

左ページの作品作りに必要な材料、用具をそろえて
いよいよ取りかかりましょう



材料

刺繍布／麻布(1cm辺りの織り糸が縦
14×横14本)ピンク25×25cm
刺繍糸／DMC コットンパールNO.8
NO.12 白(BLANC)

用具

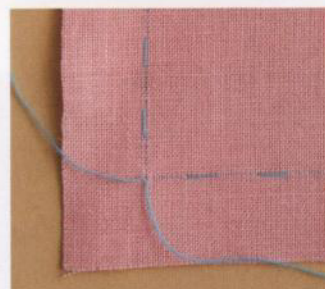
木枠、刺繍針、木綿糸・縫い針、ハサミ、
毛抜き、荷造りテープ
→41～43ページ参照
できあがりサイズ 約18×18cm

ティーナプキンの作り方手順

布の下準備・織り糸を数える→espigueta
(布端かがり)をする→織り糸を抜く→布を
木枠に張る→línea(土台のかがり)をする
→redondoを刺す→残した布にonda(スカ
ラップかがり)→外周の輪郭に補強の糸を
かける→florA(花A)を刺す→外周にfestón(縁
かがり)をする→洗う、乾かす、切り離す

織り糸を数える

作品より1cm四方大きめに織り糸を1、2本抜
いてガイドラインにします。
ガイドラインの織り糸を拾い、しつけをかけ
ます。織り糸を残す部分(しつけ糸が上)、抜
く部分(しつけ糸が下)になります。ティー
ナプキンの場合、縦15本抜いて10本残す、横
17本抜いて12本残すを繰り返して、10×10マス
のかがりスペースを作りますが、この時点で
はまだ織り糸は抜きません



しつけ糸(青)が表に出る部分が残す
織り糸、裏に出る部分が切る織り糸
です。織り糸の本数を数え間違えな
いように注意して

espigueta(布端かがり)のガイドラインを作る



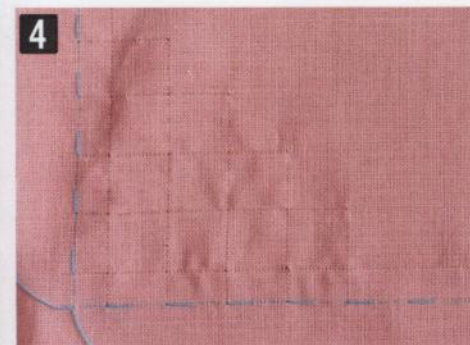
織り糸の端を切り、針先で糸端を引き出す



引き出した糸端を毛抜きで更に引き、布に引き
ツレを起こす



引きツレた糸の上端を切る。縦の織り糸が1本
抜けた。同様に残り3辺の織り糸も抜く



1～3の要領でespiguetaの輪郭を縦・左側か
ら5、4、3、2と1マスずつ減らし、階段状に抜
いたところ



3、4で抜いたガイドラインの5本内側の織り糸
を抜く



縦糸と横糸の交点を引き出して切る



7 横ラインを縦ラインの同位置まで抜く



8 横ラインと同位置の5本内側の織り糸を切る



9 引き出した織り糸を切る

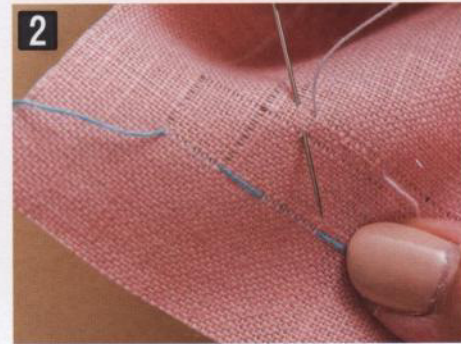
espigueta(布端かがり) NO.12使用



10 6～9を繰り返して、階段状に織り糸を抜く



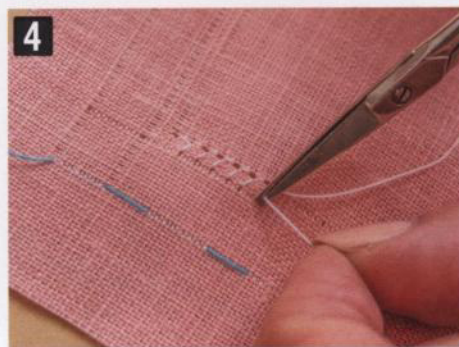
1 小さく布目を2回すくい、内ライン左上角の織り糸4本分手前に針を出す



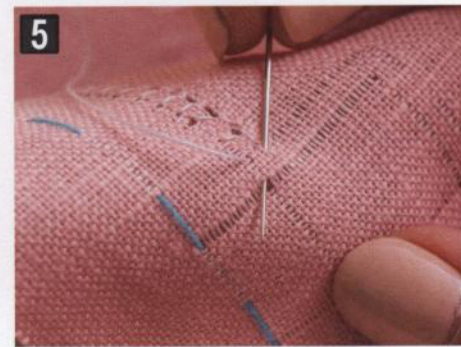
2 内角に針を入れ、外ライン上に斜めに針を出す



3 針を1の針目に入れ、織り糸4本分すくって内ライン上に出す。espiguetaが1目できた



4 2 3と同様に刺す。始めの小さな目まで着たら糸端を始末し、続けて刺し進む



5 刺し続けて内角に来たら、外角に針を出す



6 再度、内角に針を入れ、外角の織り糸4本分先に針を出す。角の部分が刺せた



7 内角に針を出し、真上に針を入れて織り糸4本分先に針を出す



8 再度、7に針を入れて織り糸4本分斜め下に針を出す



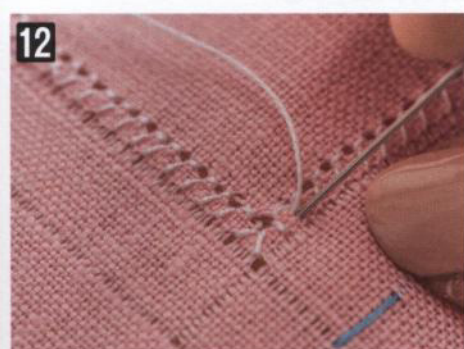
9 真上に針を入れ、7の内角に再度針を出す



10 横のラインの角まで刺せた



11 最後の角を5 6の要領で刺す



12 終わりは織り糸の内から2本目と3本目の間に針を出し、隣に入れる



13 (裏側) 刺し終わりは裏糸を2目すくい、2目目と次の目に針を通す



14 (裏側) 刺し終わりの糸端を始末したところ



15 espigueta(布端かがり)ができた

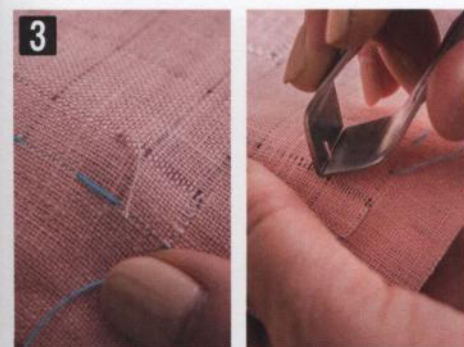
織り糸を抜く



1 始めのガイドラインに沿って縦・左端の織り糸を抜く部分(しつけ糸が下)にハサミを入れる



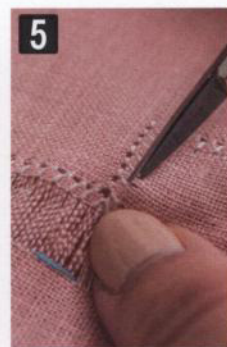
2 対角線上(縦・左端の上)も同様に切る



3 カットした織り糸を引き出し、毛抜きで引き抜く



4 隣も同様に下を切り、毛抜きで端2本に引きツレを起こす(階段状の部分はしつけが無いので)



5 ツれた織り糸を目やすく上辺を切る





縦の織り糸が2列抜けた



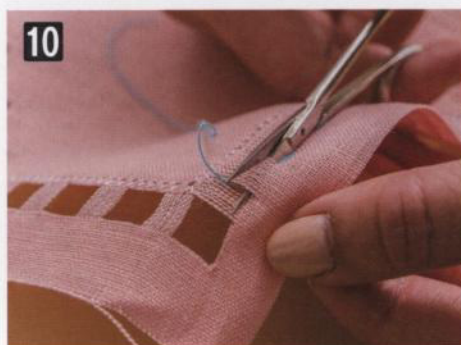
1マスの部分は上下にハサミを入れて切る



上辺を残して縦の織り糸が抜けたところ



上辺、右辺を残して縦横の織り糸が抜けた



残り2辺は1マスのスペースなので織り糸をハサミでカット

木枠に張る



刺繍布の裏面を上にして1辺を木枠の布に重ねる



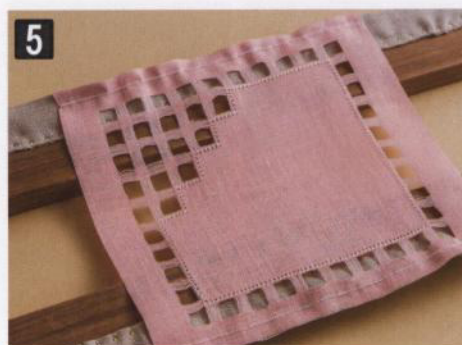
木綿糸で縫い付ける。糸端は玉結びにして2、3回返し針をする



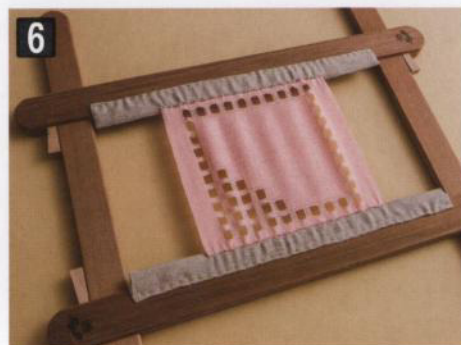
粗めの半返し縫いで縫う



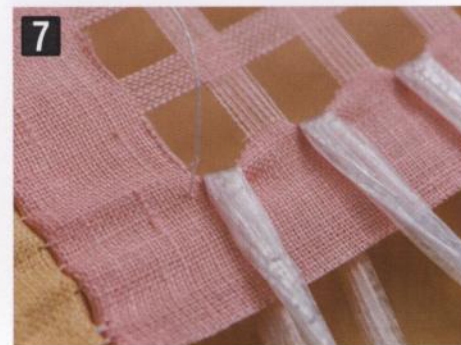
縫い終わりも2、3回返し針をして玉留めをする



反対側も同様に縫い付ける

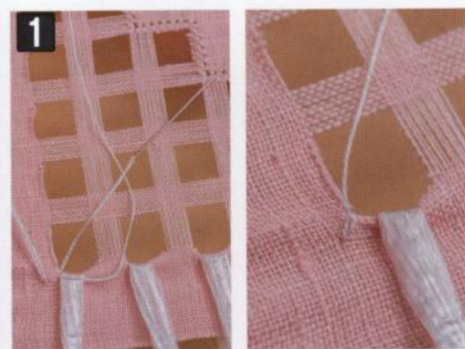


刺繍布を表向きに返し、木枠を組んでビスで留めたところ

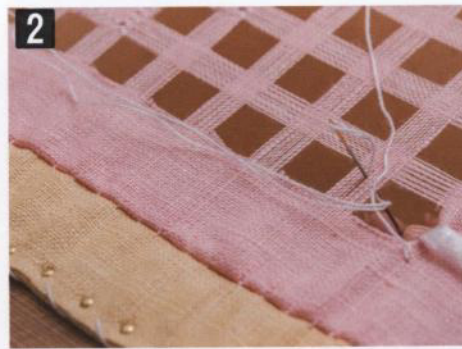


刺繍布をピンと張るため、マス目に荷造りテープを通し、木枠に掛けて引く

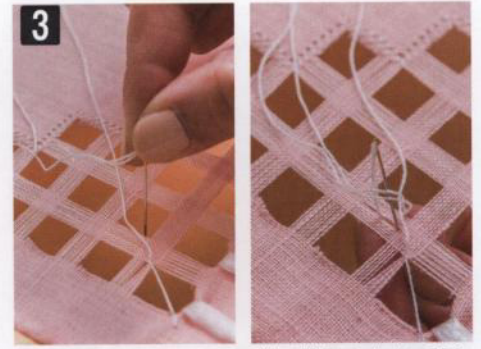
línea(土台のかがり) NO.12使用



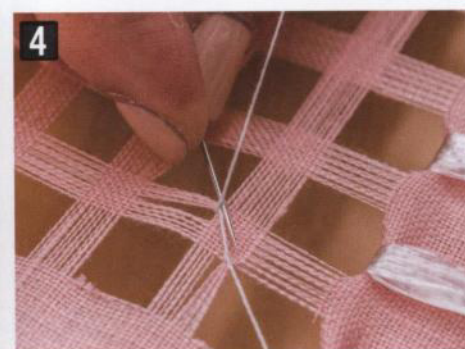
裏から針を出して右隣に入れ、糸の輪の中から出す。糸を引いたところ



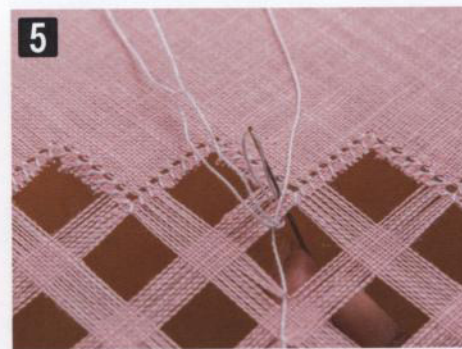
横の織り糸中央に裏から針を出し、糸の輪を通して結ぶ



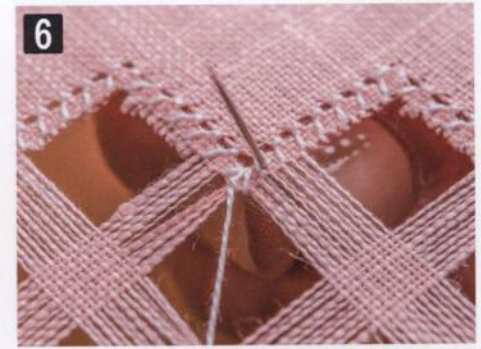
針を右上のマスに入れ、縦の織り糸中央に裏から出し、糸の輪を通す



針先を結び目に入れて糸を引き締める



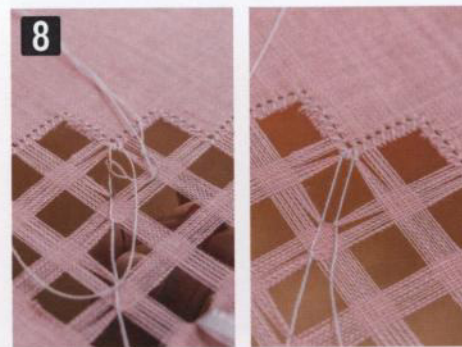
縦、横の織り糸を交互に結びながら、右斜め上に刺し進む



上まで結んだら、espiguetaの織り糸の中央に裏から針を出す



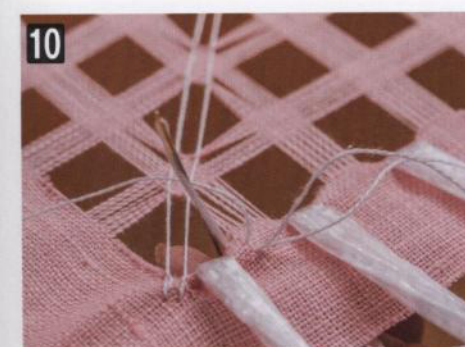
針を右縦の織り糸中央に表から入れ、左マスに裏から出して糸の輪を通す



針を横の織り糸中央に表から入れ、上マスに裏から出して糸の輪を通す



3～8の要領で縦横の織り糸を結んで、3～6と平行して左下に刺し進む



布の裏を通過して右隣に移動し、縦の織り糸中央に裏から針を出して糸の輪を通す



左斜め上角に裏から針を出し、糸の輪を通す



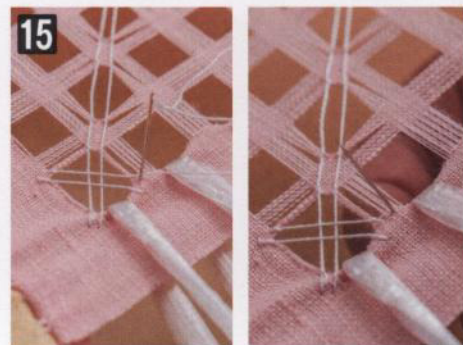
針を11の隣に表から入れ、横の織り糸の束の1本手前に裏から出す



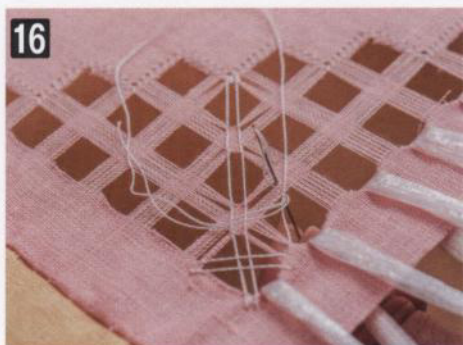
13 針を横の織り糸中央に裏から出し、糸の輪を通して下マスに表から入れる



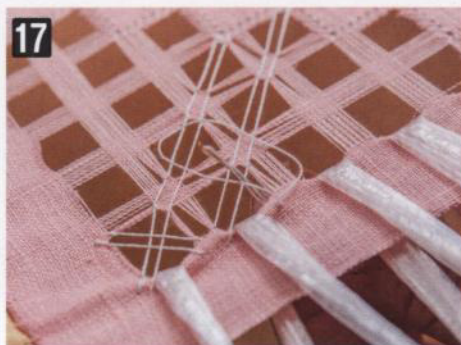
14 右下角に糸の輪を作り、針を裏から出して13の要領で結ぶ



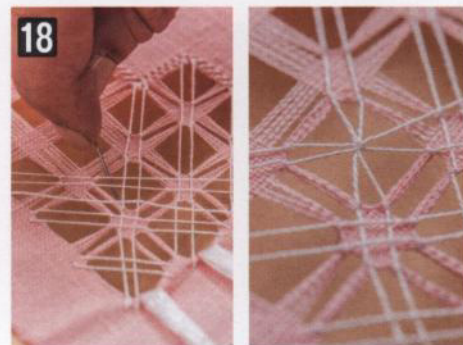
15 織り糸2本分外側に表から針を入れ、4本右に裏から出す



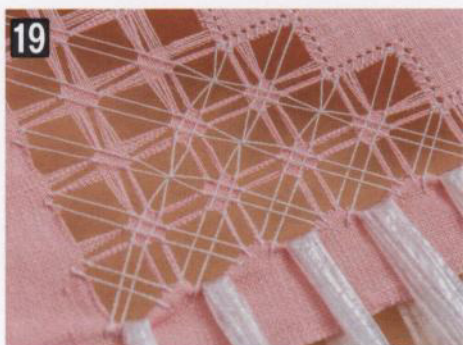
16 3~6の要領で縦横の織り糸を結んで右上に刺し進む



17 右斜めと左斜めを交互に刺し、右側から刺し埋める



18 左上から右下に刺し戻る際、渡した糸が3本重なる交点を4本目でひと結びする



19 右半分が刺せたところ。外回りの交点は縁かがりと重なるので結ばない



20 木枠を90°回転させ、左半分は上から刺し始める



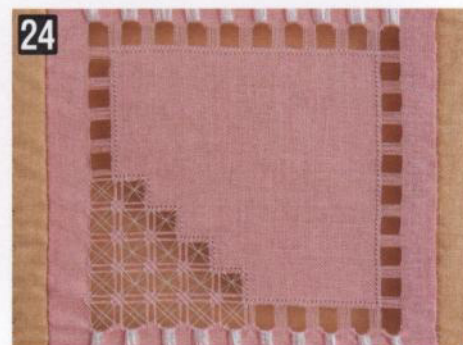
21 右半分と同様にして左側も刺せた。外回りの交点は縁かがりと重なるので結ばない



22 糸端を玉結びしてespiguetaの穴の際に裏から針を出し、横の織り糸を結ぶ

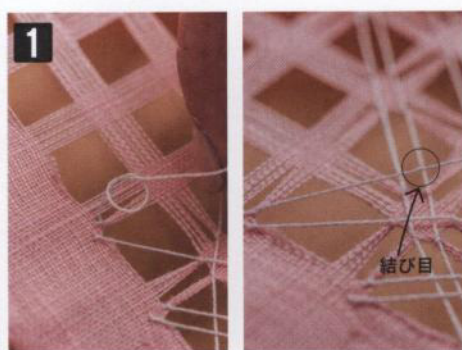


23 これまでの要領で結び、1マスごとに仕上げる

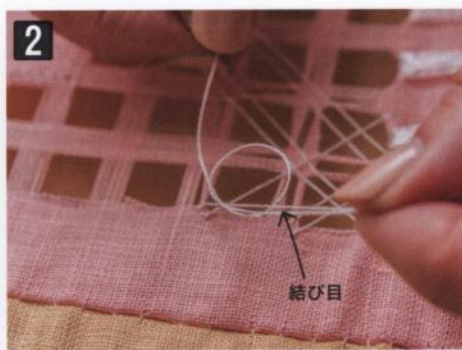


24 línea(土台のかがり)のできあがり

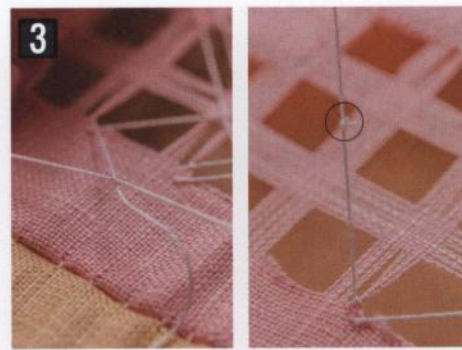
途中で糸をつなぐ 残り糸が少なくなった場合



糸端に結び目を作る



新しい糸の糸端を輪にして①の結び目の内側にかける



糸端を引いて結び、糸端を切る。結び目が2つ重なる

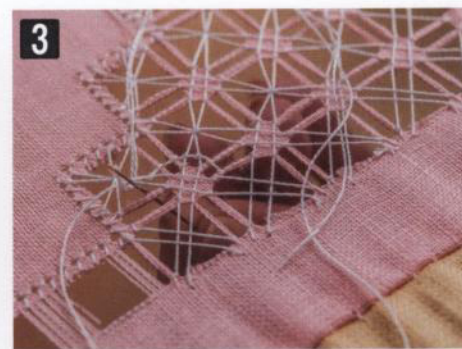
redondo(一重の丸かがり) NO.12使用 →44ページ参照



redondoを刺したい位置の織り糸中央に裏から針を出し、隣に表から入れる



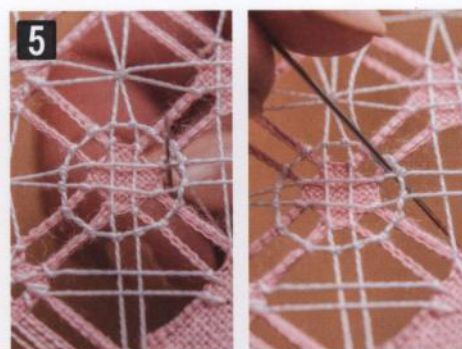
束ねた織り糸の下を通して写真の位置を結ぶ



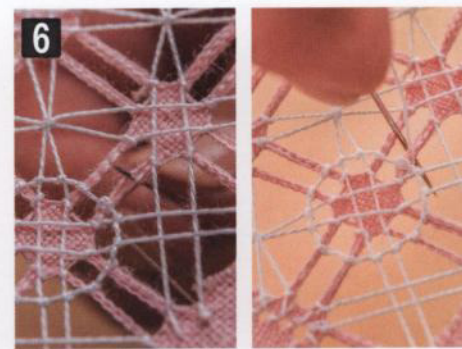
織り糸の束、línea(土台のかがり)の糸を拾って結びながら円形に移動する



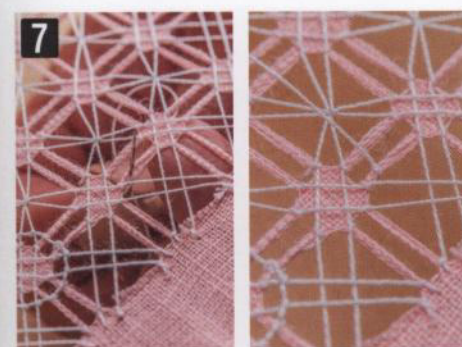
1周したら②の結び目にピッタリつけての右隣に結ぶ



②の結び目を飛び越えて織り糸の束に裏から針を出し、隣の隙間に表から入れる



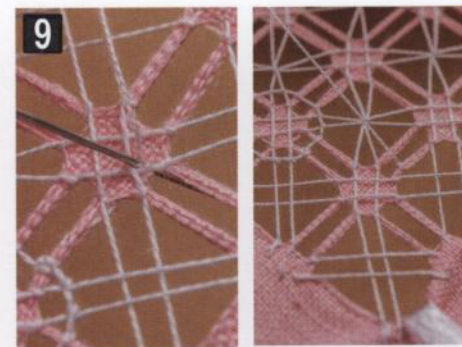
織り糸中央に裏から針を出し、隣に表から入れる



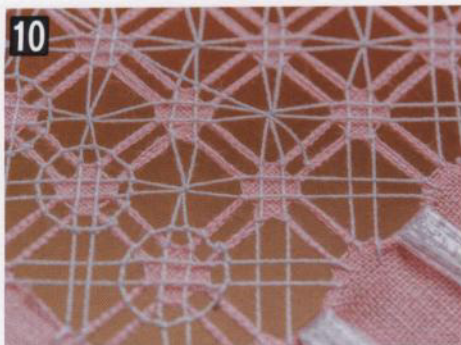
織り糸の束の下を通して右隣マスの織り糸の束中央に裏から針を出して結ぶ



縦に3個のredondoが刺せたところ



次のredondoの中央に裏から針を出し、隣に表から入れ、木杵の向きを90°変えてredondoを作る



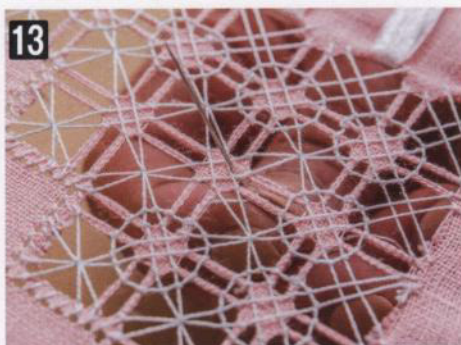
2～4を繰り返して、4個目のredondoができた



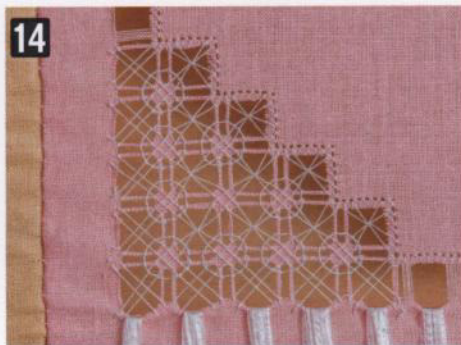
横方向にも2～7と同様に刺してL字にredondoが並んだ



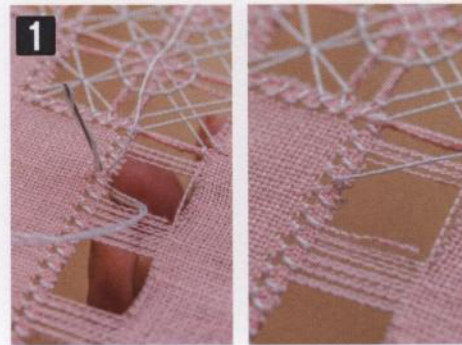
花Aの場所をあけ、次のredondoの位置に1と同様にして糸をつけて刺す



織り糸の下を通して次に移動し、2～4と同様に刺す



斜めに2個のredondoを刺し、すべてのredondoが刺せたところ



刺し始めに裏から針を出して糸の輪を作り、再度裏から針を出して引く



織り糸の束を拾って結ぶ



織り糸、líneaの糸を結びながら刺し進み、espiguetaの織り糸に1と同様に刺す



líneaの糸を結んで移動し、1と同様にして対角線上に糸をつける



3と同様にして階段状のespiguetaに2個目のonda(スカラップ)ができた



3 4と同様にして階段状のespiguetaにondaを刺したところ



1と同様に糸をつけ、外周にもonda(スカラップ)を刺していく



織り糸の中央に裏から針を出して結ぶ



織り糸を結びながら espigueta の穴を拾ってスカラップ状に移動する



コーナーは写真のように結ぶ



onda(スカラップ)で外周を1周したところ



刺し終わりは espigueta の穴に裏から針を出して糸の輪に通して引く



外周のスカラップと redondo に沿わせ、織り糸と línea の糸に上下交互に補強の糸を通す



織り糸の結び目にくると交差させて糸をかける



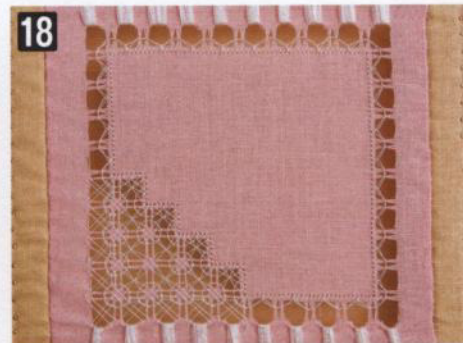
次も 14 と同様に糸をかける



織り糸と línea の糸に上下交互に糸を通す

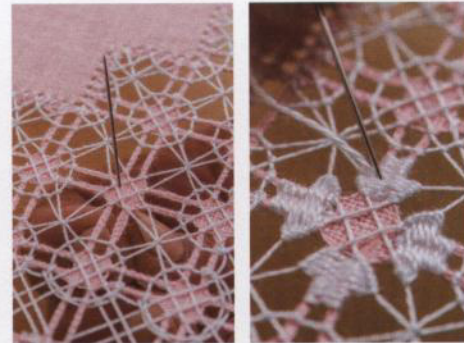


espigueta の穴に通し交差させて、織り糸を上下交互に通して移動する



全体に補強の糸をかけたところ

florA(花A)を刺す NO.8使用



あけておいた中央スペースに裏から針を出し、florAを刺す。刺し方は48ページ

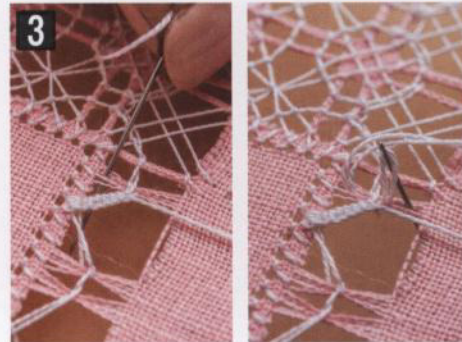
festón(縁かがり) NO.8使用



1 ondaの刺し終わりに裏から針を出し、ondaの1と同様にして糸をつける



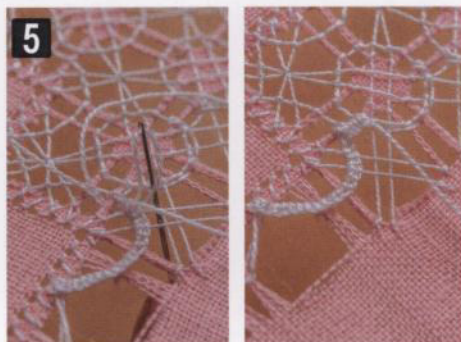
2 ondaと補強の糸を芯にして針に糸をかけながら festónを刺す。刺し方71ページ参照



3 織り糸の束の部分は中間に表から針を入れ、裏から出して1目刺す



4 líneaの部分はlíneaの糸を挟むようにして刺す



5 onda、redondoと織り糸の交点は2度かかる



6 ondaとredondoの外周に festónを刺したところ



7 刺し終わりは、刺し始めに表から針を入れ、



8 festónの1目目に裏から針を出し、表から入れて糸を切る



9 全体の刺し上がり

木枠ごと作品を洗う



1 シャワーで全体を濡らし、中性洗剤を泡立てたスポンジで優しく洗う



2 乾いたタオルで水気をふき取り、風通しの良い日陰で乾かす

木枠から作品を切り離す



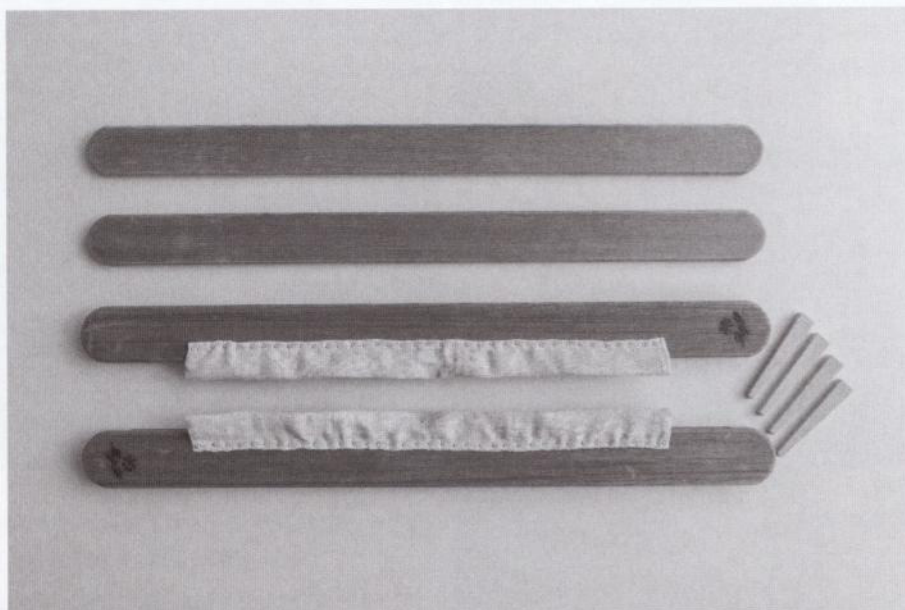
3 角から festónを切らないように注意して織り糸とlíneaの糸を切る

素材と用具

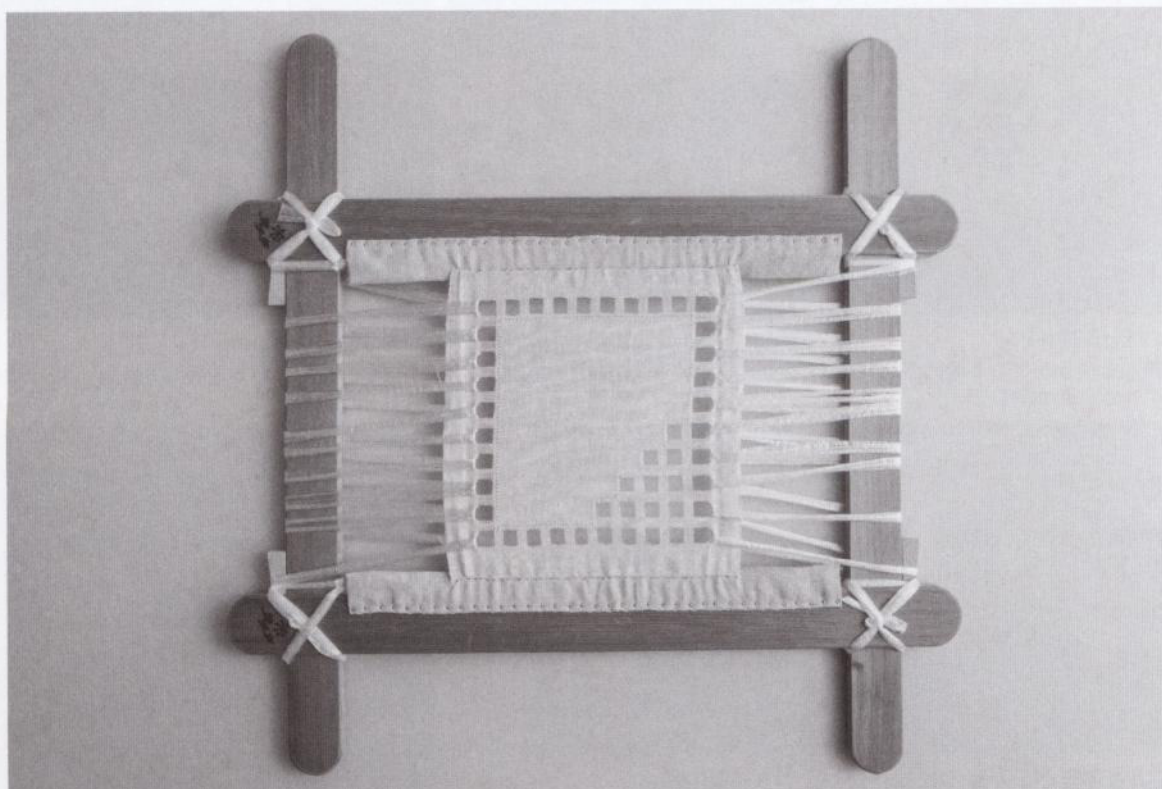
カナリア刺繍は、円型の刺繍枠(フープ)に比べると、大きくしっかりした木枠に刺繍布全体を留め付けて刺し進めていきます。そのため、他の刺繍では使われない意外なものを使います。

木枠

刺繍布の織り糸をかける作業が主なので、布をピンと張るための木枠が必要です



組み立てる前の状態、縦横4本の板とビス。2本の板には刺繍布を縫い留める布を付けています
木枠制作 / J M



組み立てて、刺繍布が張られた状態

刺繍布

織り糸を抜くことのできる、ある程度目の詰んだ平織りの麻布を使用します



1cm辺りの織り糸が20×20本の布目の細かいタイプ



1cm辺りの織り糸が17×17本の扱いやすいもの



グラン・カナリア島で入手した麻布
1cm辺りの織り糸が14×14本の目の粗いタイプ



クラッシー
1cm辺りの織り糸が16×16本。色のバリエーションがある

刺繍糸

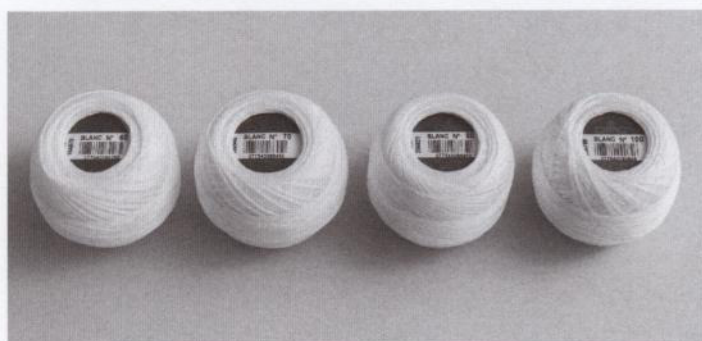
かがり糸としてNO.8、NO.12のパールコットンやルトール・アルザスなどで刺します



Anchor パールコットン
糸艶が美しく使いやすい8番の白(左)と12番のオフホワイト(右)



DMC コットンパール
パールのような輝きを持つ8番(左)と12番の白(右)

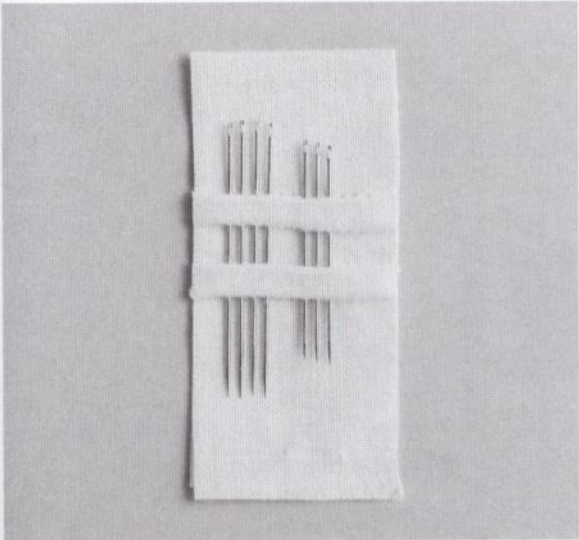


DMC コルドネススペシャル 白
(左から)60、70、80、100番をかがりの細かさに応じて変えます



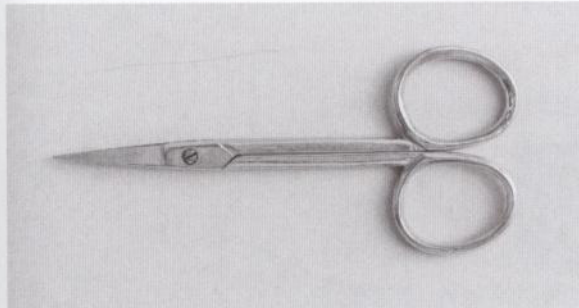
DMC
ルトールアルザス
エジプト綿から造られた
光沢の美しい糸
8番(左)と12番の白(右)

針
かがりには布に刺しやすい針先の尖ったものを、織り糸を抜くときや布を張る際にはメリケン針を使います



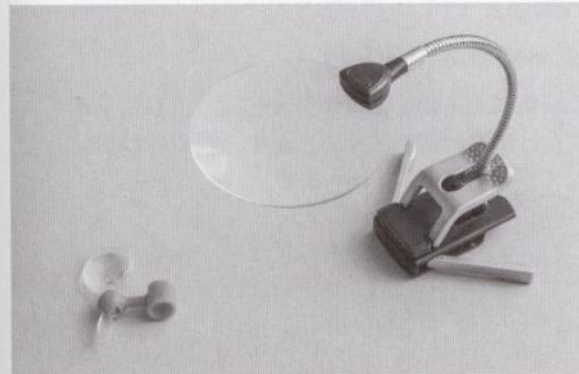
針長の長いものと短いものを使い分けて

ハサミ
細かい作業が多いので、小さめのものを用意します



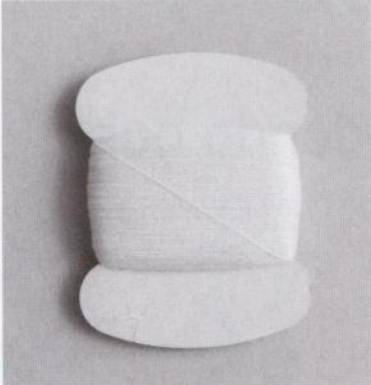
刃先が短く、反りのないもの

ルーペ
細かい作業が続くので、あると便利



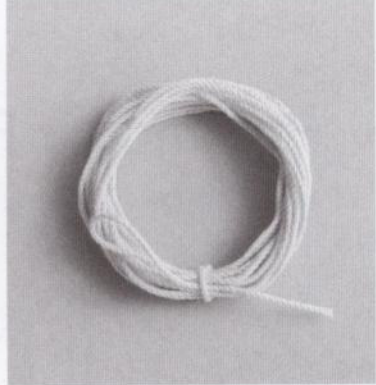
指にはめる手元タイプ(左)と卓上タイプ(右)

木綿糸
刺繍布を木枠の布に留め付けるときに使用



綿100%の丈夫な糸
細番手のものを使用

タコ糸
刺繍布を木枠に固定するとき
に使用



太めで丈夫な綿糸
細6号を使用

荷造りテープ
木枠に刺繍布をピンと張るために使用



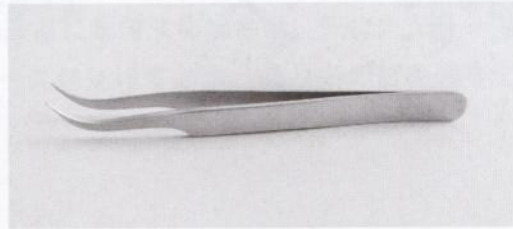
ナイロン製の
しなやかな紐

ケヌキ
刺繍布の織り糸を抜くときに使用



刃に幅のあるタイプが
使いやすい

ピンセット
作業中にできた埃を取り除きます



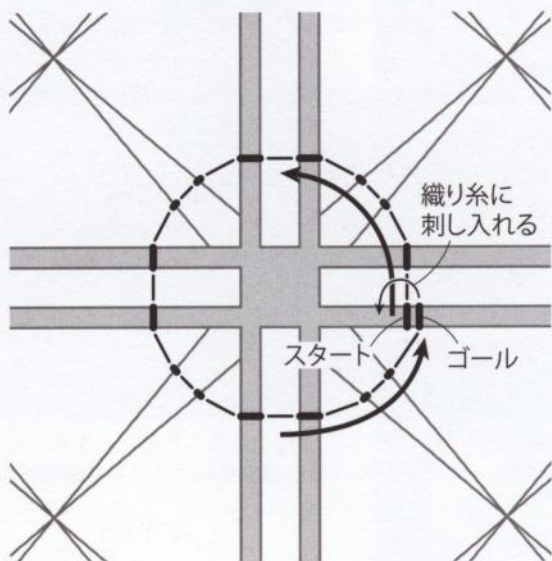
医療用で
先が細く尖ったカーブ状
細かい部分にも使いやすい

かがり方の基礎

作品によく使われている丸模様、花、リボンなど、カナリア刺繍独特の可愛いモチーフのかがり方をイラストで解説します。

Redondo y Redondo doble (スペイン語の丸と二重の丸)

多くの作品に使われている丸モチーフのかがりです

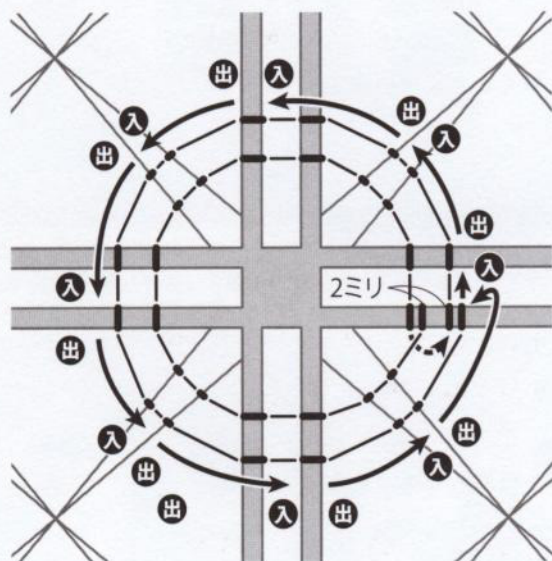


--- = 結び目

一重の丸



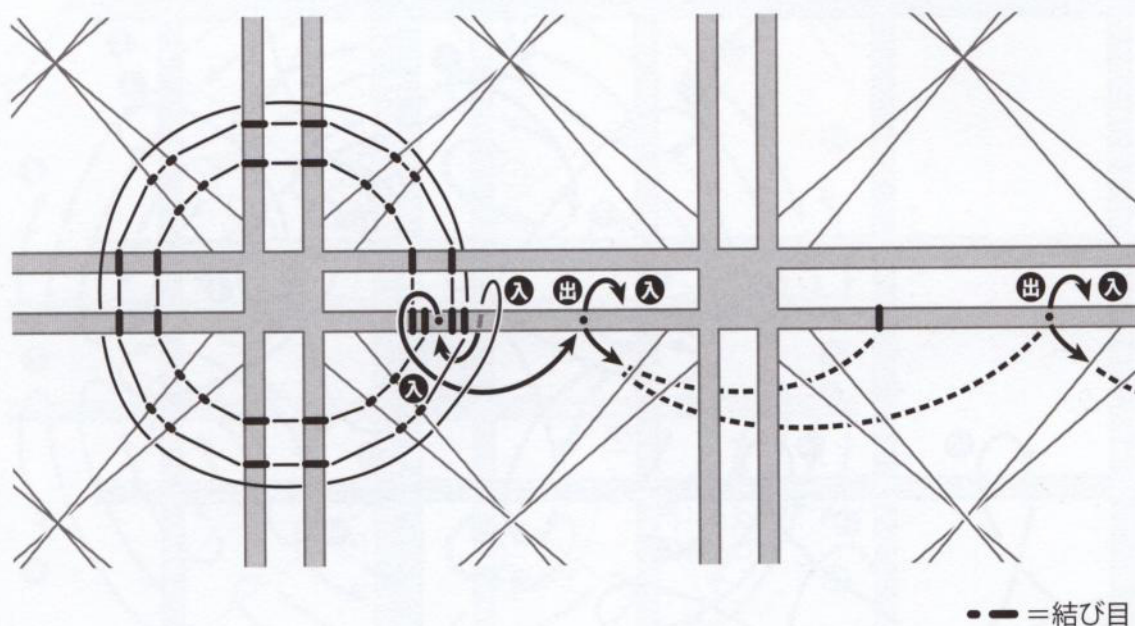
1. スタート地点に裏から糸を出してひと結びしたら、織り糸と渡した糸をひと結びしながら反時計回りに1周します。
2. 1周目の終わりはスタートの結び目の右隣りにぴったりつけて結び、スタートの結び目を飛び越えた丸の内側に上から針を入れます。



二重の丸



- 1、2. は一重の丸と同様に刺しますが、1周目の丸はできるだけ小さめに作ります。
3. 2周目の丸は、1周目ゴールの結び目から2mm程離れた位置にスタートの結び目を作り、1周目の丸と同様、反時計回りに結びながら刺し進みます。
4. 終わりは1周目の丸と同様、スタートの結び目の右隣りにぴったりつけて結びます。
5. 続けて2周目の丸に沿わせるように、針を交互に出し入れして織り糸と渡した糸をすくいます。結び目の下を通す、次の結び目は上を通るを繰り返して反時計回りに1周します。



6. 5.の終わりの糸は2周目のスタート地点の下を通り、1周目と2周目の丸の間に裏から針を出し、そのすぐ隣に表から針を入れます。
7. 次のモチーフに移動する場合は、2周目の始めと終わりの結び目と織り糸の裏を通して針を出し、すぐ隣に表から針を入れます。

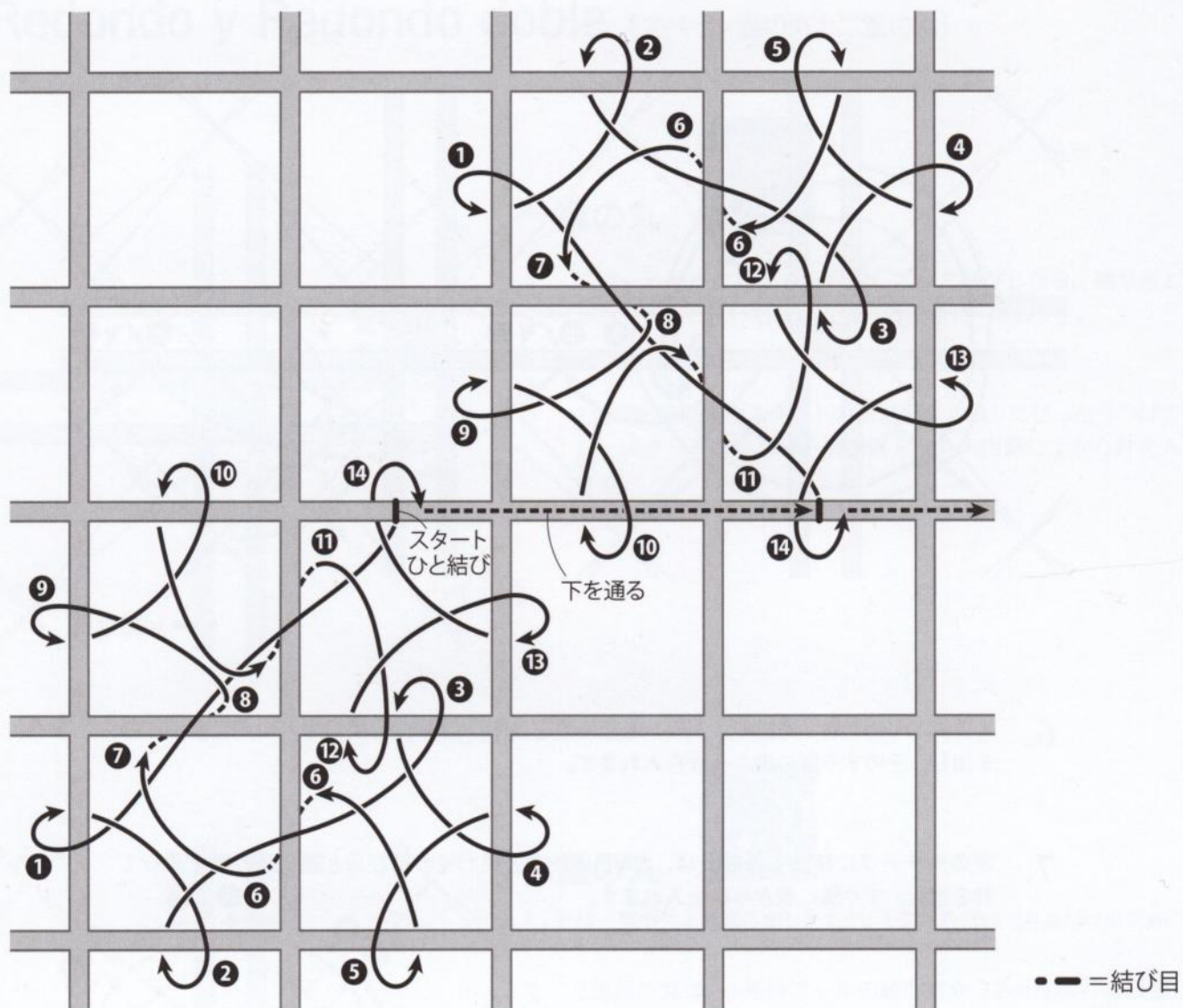
次のモチーフに移る場合

■ 丸モチーフを続ける場合は●に裏から針を出し、再度上から下に針を入れ、織り糸の裏を通して1周目のスタート地点に裏から糸を出し、ひと結びして1周目の丸のスタートにします。

■ 丸モチーフと花モチーフを交互に配置する場合は、先に丸モチーフを全て刺します。花モチーフのスペースは空けておき、織り糸の裏を通して次の●に針を進めます。

Punto de espíritu (スペイン語の精霊かがり)

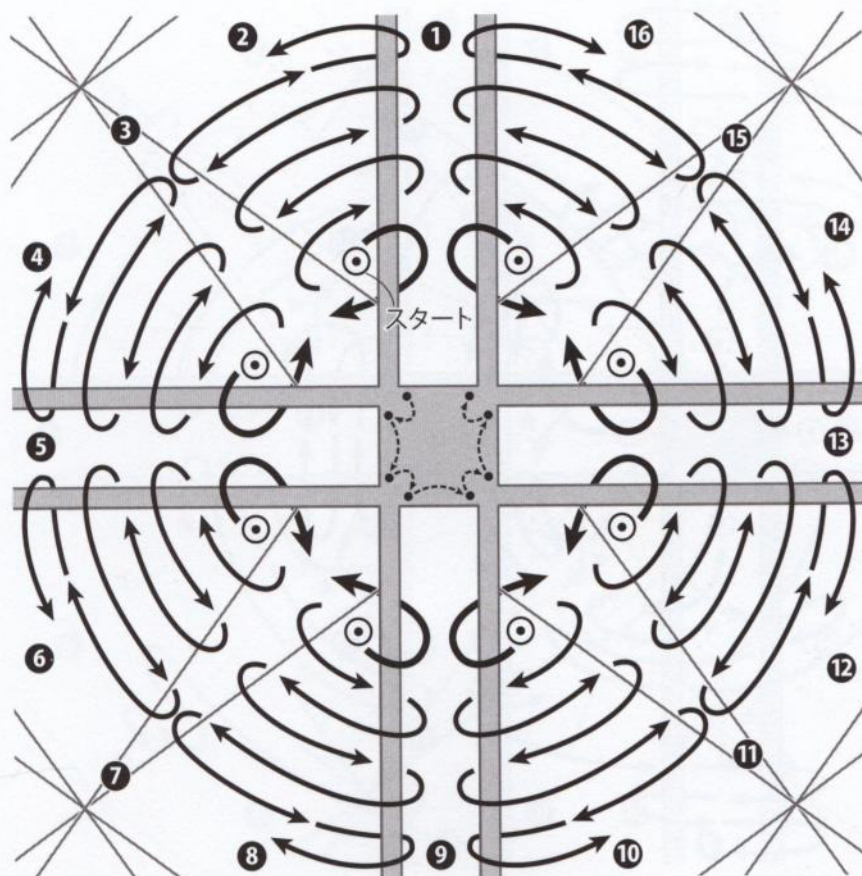
織り糸を拾いながら、精霊が飛び交うように一筆書きでかがっていきます



1. スタート地点に裏から糸を出し、ひと結びします。一模様を刺して次に移動する際は、織り糸の下を通過して移動します。
2. スタート地点から①に向かって、織り糸の上を通過して移動します。
3. 織り糸の上下を通りながら①～⑭に向かって番号順にかがっていきます。一つ目の模様は、スタートと刺し終わりが上辺になります。
4. 一つ目の模様を刺し終わり、次に移動する際は織り糸の下を通り、次の模様のスタート地点に裏から糸を出してひと結びします。二つ目の模様はスタートと刺し終わりが下辺になります。
5. 4.の刺し終わりから織り糸の下を通過して次に移動します。
6. 織り糸の上下を通りながら①～⑭に向かって番号順にかがっていきます。

Margarita (スペイン語のマーガレット)

マーガレットの花をモチーフにした8弁の花模様

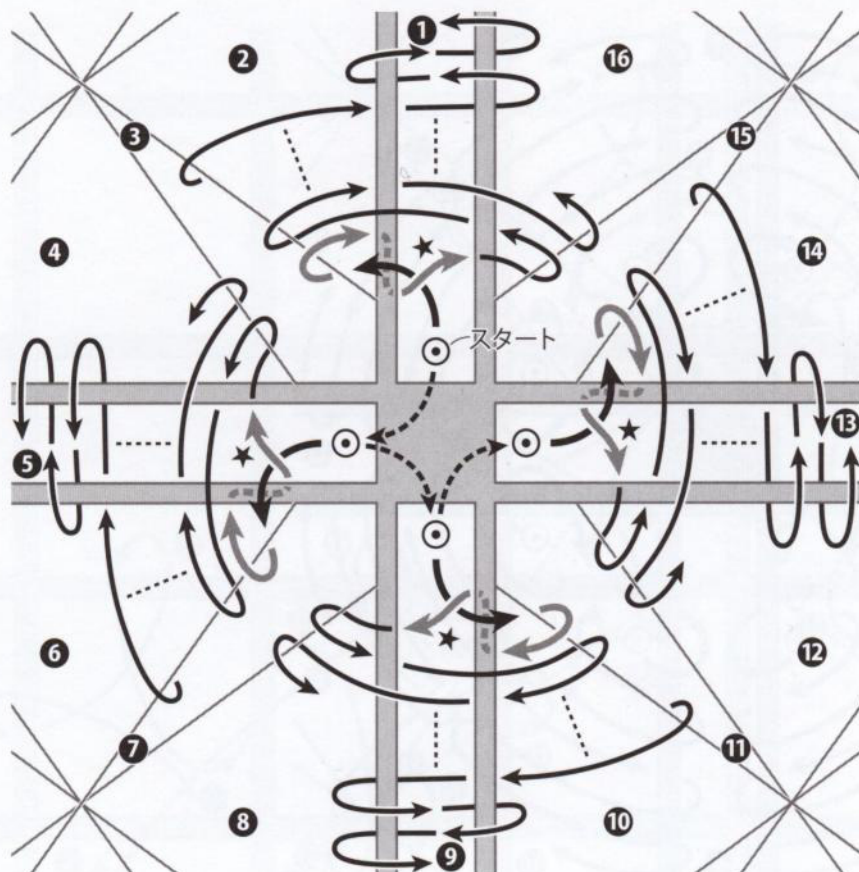


1. ②のスタート地点から糸を出します。
2. 織り糸①と渡した糸③を包むようにかがり、②に針を入れて根元を締めます。
3. 続けて①の織り糸をすくって②に入れ、渡した糸③をすくって②に入れるを繰り返し、6往復します。
4. 終わりの糸は①(終わりは必ず織り糸側)に出し、3.のかがりの裏を通過して中央布地の左上●に裏から針を出し、織り糸1本分をあけて表から針を入れます。1枚目の花弁ができました。
5. 次の花弁は、織り糸の裏を通過して④のスタート地点に糸を出します。
6. 織り糸⑤と渡した糸③を包むようにかがり、④に針を入れて根元を締めます。
7. 続けて織り糸⑤をすくって④に入れ、渡した糸③をすくって④に入れるを繰り返し、6往復します。
8. 終わりの糸は⑤(終わりは必ず織り糸側)に出し、7.のかがりの裏を通過して中央布地の左上●に裏から針を出し、織り糸1本分をあけて表から針を入れます。2枚目の花弁ができました。
9. 残り6枚の花弁も1.～8.の要領で反時計回りに刺していきます。
10. 8枚目の花弁を刺し終わったら、花弁中央に裏から針を入れ、表から刺して裏で糸をカットします。

■ →部分は、織り糸と渡した糸を包むようにかがる

Flor (スペイン語の花) A

4弁の花びらが縦横に開いた形



1. ①のスタート地点から糸を出します。織り糸①の上を通して②に入れます。その際、糸は弛めておきます。
2. 渡した糸③をすくって②に入れ、織り糸①をくぐって1.で弛めておいた糸の中から針を出します。
3. ⑬に針を入れて渡した糸⑮をすくい、再び⑬に針を入れて織り糸①の下、上を通して②に針を入れます。
4. 渡した糸③をすくって②に針を入れ、織り糸①の下、上を通して⑬に針を入れます。3.、4.を1往復として4往復します。
5. 渡した糸⑮をすくって⑬に針を入れ、織り糸①の下、上を通して②に針を入れ、渡した糸③をすくって②に針を入れます。

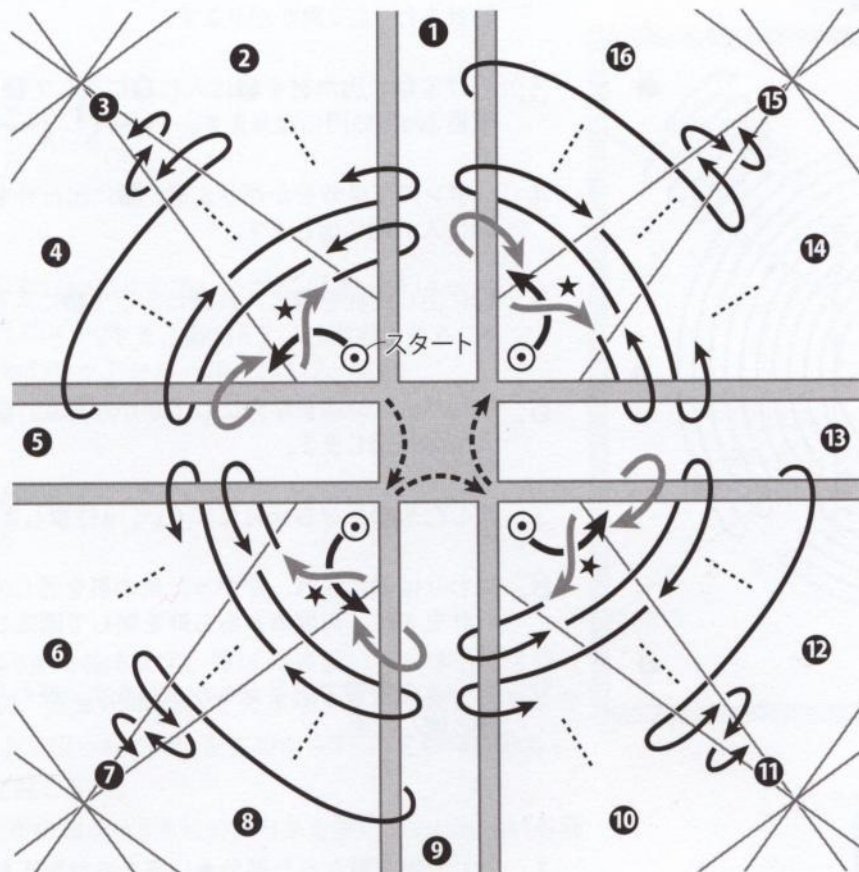
6. 続けて花弁の幅を半分にしてかがります。織り糸①を左右交互にすくい、3往復します。
7. 終わりは⑮に出した糸を①に入れ、裏を通して★に出し、●に上から刺します。
8. 次の花弁のスタートは中央布地の裏を通して移動し、⑤のスタート地点に糸を出します。
9. 残りの花弁も1.～7.の要領で反時計まわりに刺し進みます。
10. 4枚目の花弁をかがり終えたら、花弁中央に裏から針を入れ、再度表からも刺して裏で糸をカットします。

■ →は弛めに糸を渡し、→を→の中から出します。
糸の弛みを引いて次に進みます。

Flor (スペイン語の花) B



4弁の花びらが斜めに開いた形



1. ③のスタート地点から糸を出します。渡した糸③の上を通して④に入れます。その際、糸は弛めておきます。
2. 織り糸⑤をすくって④に入れ、渡した糸③をくぐって1.で弛めておいた糸の中から針を出します。
3. ②に針を入れて織り糸①をすくい、再び②に針を入れて渡した糸③の下、上を通して④に針を入れます。
4. 織り糸⑤をすくって④に針を入れ、渡した糸③の下、上を通して②に針を入れます。3.、4.を1往復として4往復します。
5. 織り糸①をすくって②に針を入れ、渡した糸③の下、上を通して④に針を入れ、織り糸⑤をすくって④に針を入れます。

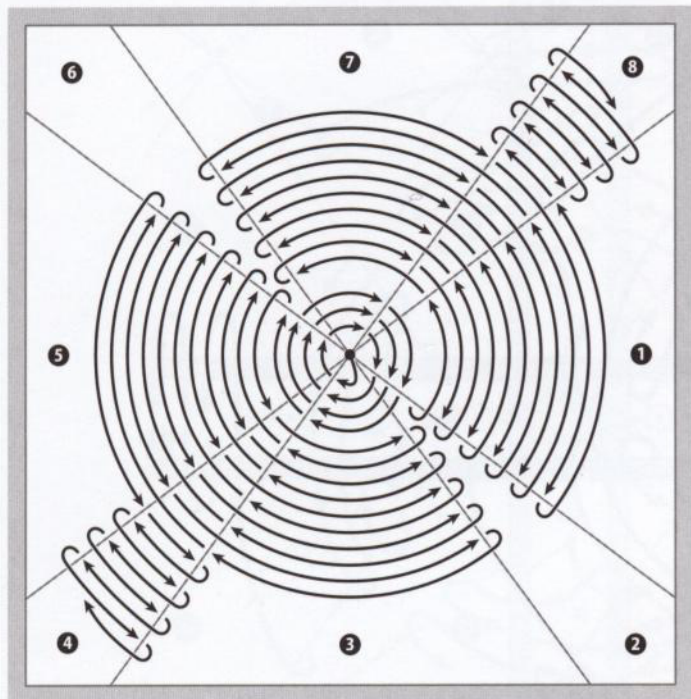
6. 続けて花弁の幅を半分にしながらかかります。渡した糸③を左右交互にすくい、3往復します。
7. 終わりは②に出した糸を③に入れ、裏を通して★に出し、◎に上から刺します。
8. 次の花弁のスタートは、中央布地の裏を通して移動し、⑦のスタート地点に糸を出します。
9. 残りの花弁も1.～7.の要領で反時計まわりに刺し進みます。
10. 4枚目の花弁をかがり終えたら、花弁中央に裏から針を入れ、再度表からも刺して裏で糸をカットします。

■ →は弛めに糸を渡し、→を→の中から出します。
糸の弛みを引いて次に進みます。

lazito (スペイン語のリボン)

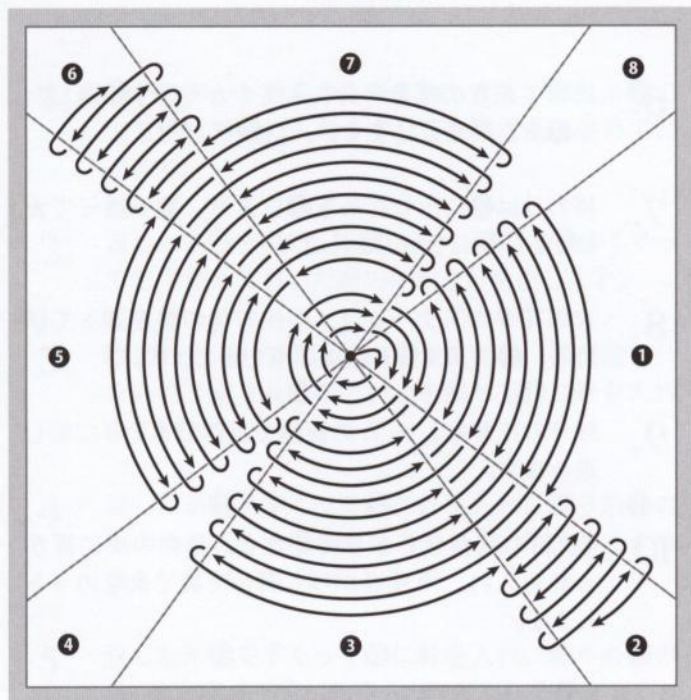
小さな蝶結びのようなキュートなかがり模様です

右斜めのリボン



1. 渡した糸の重なった部分●に裏から針を入れ、③に糸を出します。
2. 渡した糸の下、上を交互に通しながら③、④～⑧、①、②に向かい、時計まわりに3周かがります。
3. 続けて②に出た針を③に入れ④に出して⑤に入れ⑥に出します。直径3mm程の円になります。
4. リボンの下半分をかがります。⑥に出た針を⑤に入れ④に出して③に入れ②に出します。
5. ②に出した針を③に入れ④に出して⑤に入れ⑥に出します。4.、5.を1往復として5往復します。
6. 次にリボンの幅を半分にしておきます。⑥に出ている針を⑤に入れ③に出します。
7. 渡した糸④を左右交互にすくい、3往復します。
8. 終わりは④に入れ、かがった糸の裏を通して1.の円の中心に裏から針を入れ、再度表からも針を刺して固定します。
9. 4.～8.の要領で上半分もかがります。終わりは⑧に入れ、8.と同様に刺します。

左斜めのリボン



1. 渡した糸の重なった部分●に裏から針を入れ、①に糸を出します。
2. 渡した糸の下、上を交互に通しながら②、③～⑧、①に向かい、時計まわりに3周かがります。
3. 続けて①に入れた針を②に出し③に入れて④に出します。直径3mm程の円になります。
4. リボンの下半分をかがります。④に出した針を③に入れ②に出して①に入れ⑧に出します。
5. ⑧に出した針を①に入れ②に出して③に入れ④に出します。4.、5.を1往復として5往復します。
6. 次にリボンの幅を半分にしておきます。④に出ている針を③に入れ①に出します。
7. 渡した糸②を左右交互にすくい、3往復します。
8. 終わりは②に入り、かがった糸の裏を通して1.の円の中心に裏から針を入れ、再度表からも針を刺して固定します。
9. 4.～8.の要領で上半分もかがります。終わりは⑥に入れ、8.と同様に刺します。

作品の図案と作り方

本誌掲載の作品中、初めての方にも作りやすい作品7点を選び、作り方をイラストで解説しています。30～50ページと併せてご覧ください。

白のドイリー 口絵 6 ページ

材料

刺繍布／麻布(1cm辺りの織り糸が縦13本×横14～15本)
白 25×30cm
刺繍糸／DMC コットンパール NO.12、NO.8
白(BLANC)

できあがりサイズ

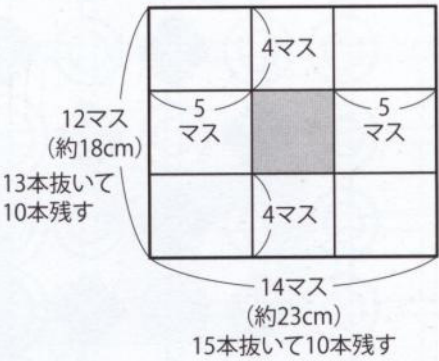
約 17×22cm

作り方

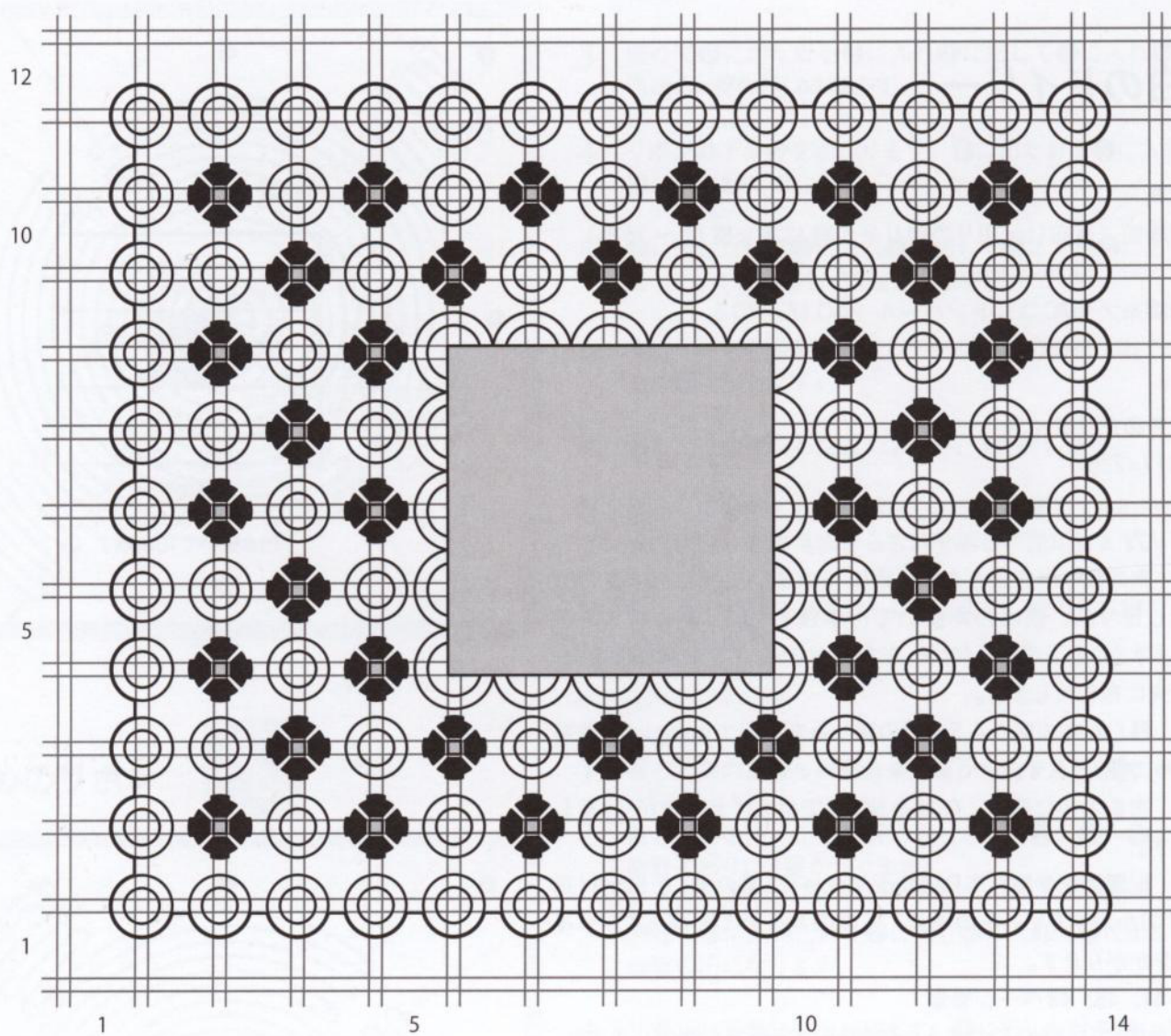
1. 布の織り糸を抜きます。縦は13本抜いて10本残すを繰り返して12マス、横は15本抜いて10本残すを繰り返して14マス作りますが、上下辺から4マス、左右辺から5マスを刺繍部分とし、中央に布を残します。
 2. 残した布の端から5本目の織り糸を抜いて espigueta (布端かがり) をします。
 3. 布を木枠に張り、刺繍糸 NO.12 で línea (土台かがり) をします。
 4. 配置図を参照して Redondo doble (二重の丸) と FlorA (花A) でかがります。その場合、二重の丸を全てかがってから花Aをかがります。
- 44、45、48 ページ参照
- 二重の丸には NO.12、花A には NO.8 の刺繍糸を使用します。
5. 中央に残した布の周囲に onda doble (二重のスカラップ模様のかがり) を刺繍糸 NO.12 で刺します。
 6. 周囲に festón (縁かがり) を刺繍糸 NO.8 で刺します。
 7. かがり終えたら木枠ごと洗い、乾かします。
 8. 作品の周囲をカットして木枠からはずします。

→ 詳細は 30～40 ページをご覧ください。

寸法図

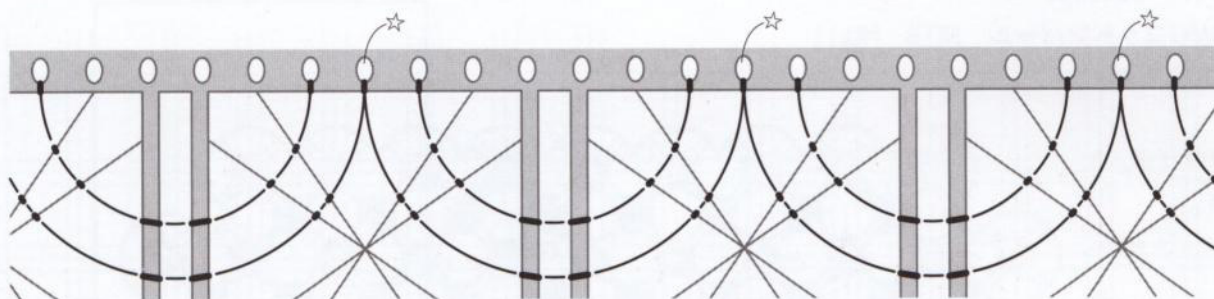


配置図



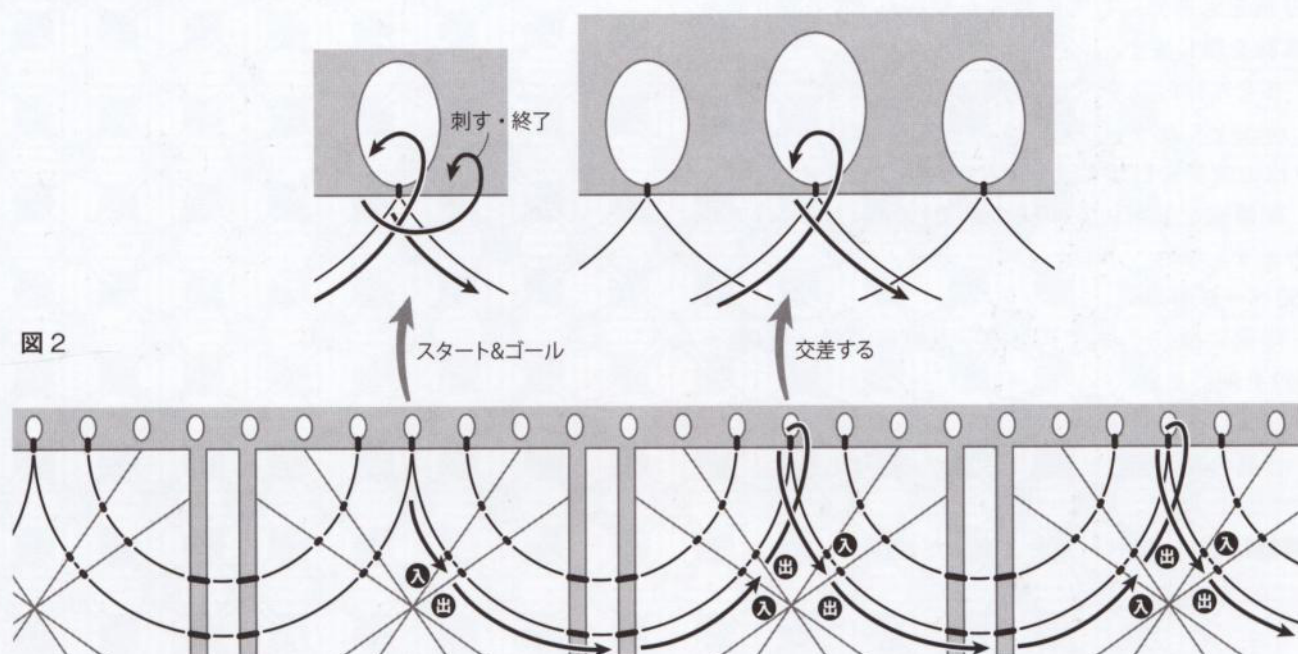
Onda doble (二重のスカラップ)

図1



--- = 結び目

図2



二重のスカラップのかがり方

1. 二重のスカラップを作るため、一重目を作る際にスカラップとスカラップの間に二重目をつけるためのかがり穴 ☆を残しておきます。(図1)
2. 布の織り糸と渡した糸を結びながら移動して一重目のスカラップを作ります。
3. 2.の2mm程外側に二重目のスカラップを作ります。終わりの結び目はスタートの結び目と同じ穴に結びます。
4. 二重目のスカラップに沿わせ、織り糸、渡した糸をすくいながら、針を交互に出し入れして刺繍糸を通します。(図2)
5. 終わりはスタート地点で糸を交差させ、表から刺して裏で糸をカットします。

ブルーのドイリー …… 口絵 7 ページ

材料

刺繍布／麻布(1cm辺りの織り糸が縦14本×横17本)

ブルー 36×36cm

刺繍糸／DMCコットンパール NO.8 NO.12

白(BLANC)

できあがりサイズ

約28×28cm

作り方

1. 布の織り糸を抜きます。縦は15本抜いて12本残すを繰り返し16マス、横は18本抜いて12本残すを繰り返し16マス作ります。

織り糸を三等分にして土台をかがるので3で割り切れる本数を残します。

2. 布を木枠に張り、土台のかがりをします。

3. onda(スカラップ模様)の輪郭を作り、もう1本NO.12の糸を沿わせて縁かぎのベースにします。

4. 配置図を参照してNO.8の糸でLazito(リボン)でかがります。

→50ページ参照

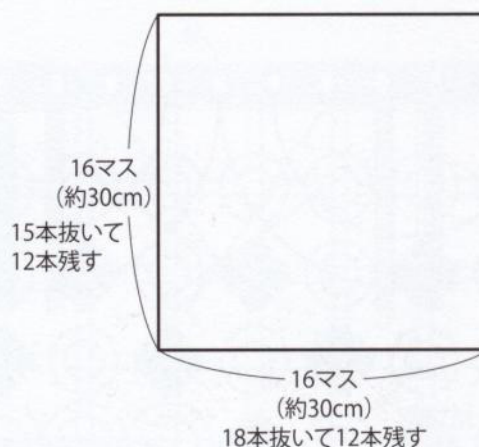
5. 周囲にNO.8の糸でスカラップ模様のfestón(縁かぎ)を刺します。

6. かがり終わったら木枠ごと洗い、乾かします。

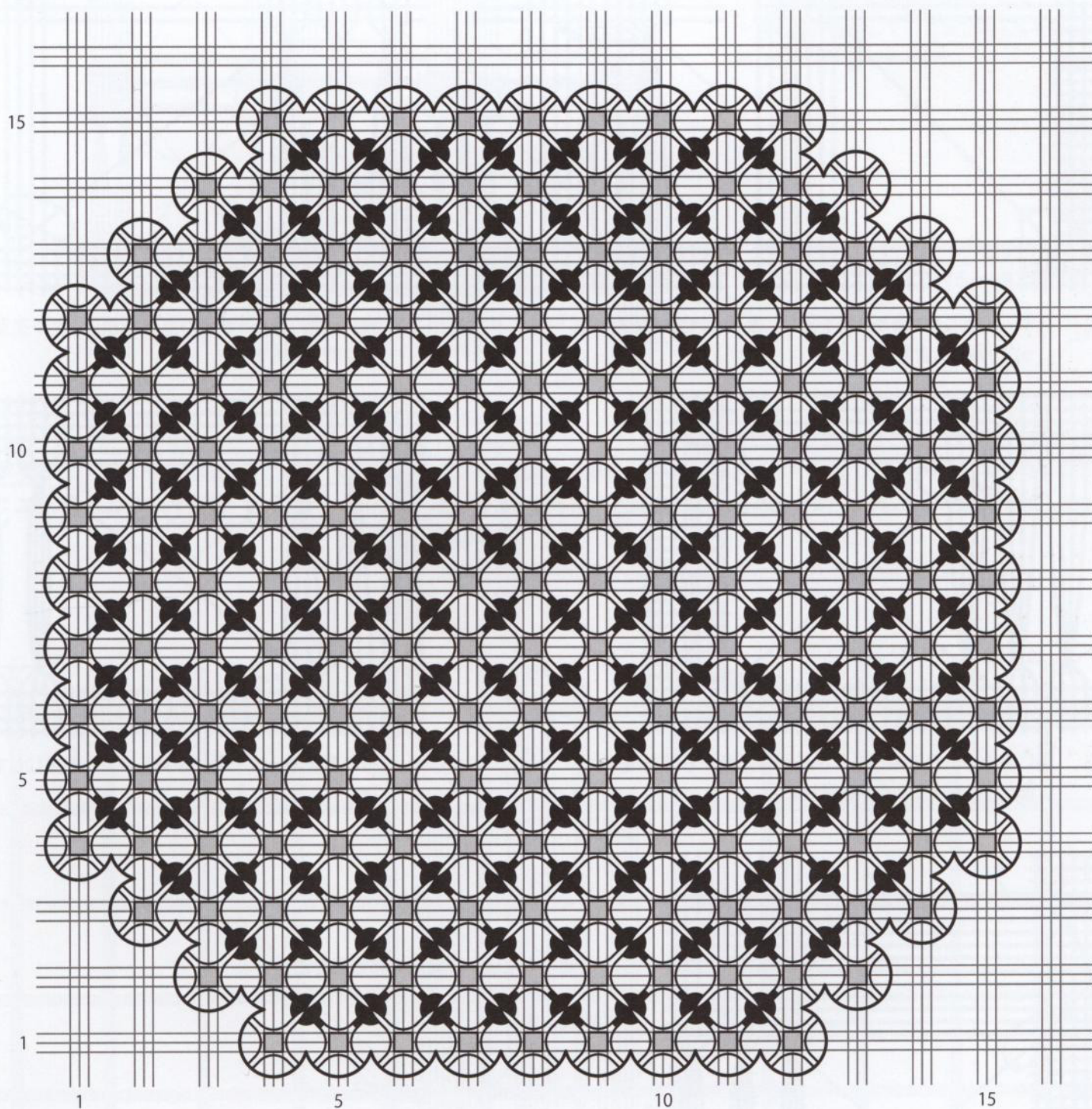
7. 作品の周囲をカットして木枠からはずします。

→詳細は30～40ページをご覧ください。

寸法図

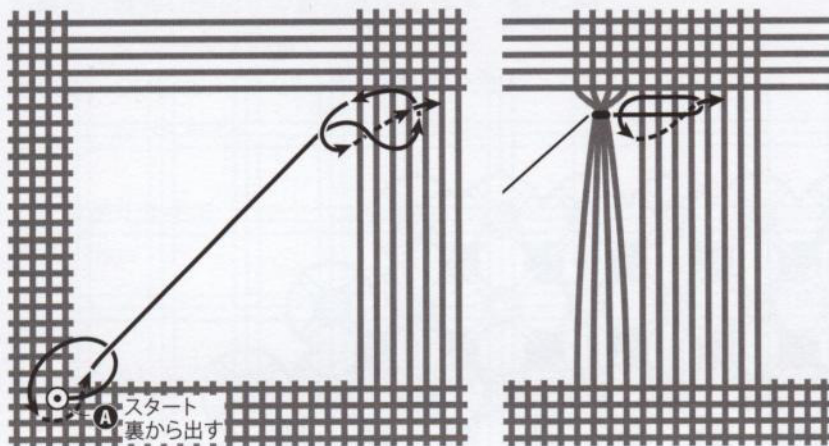


配置図

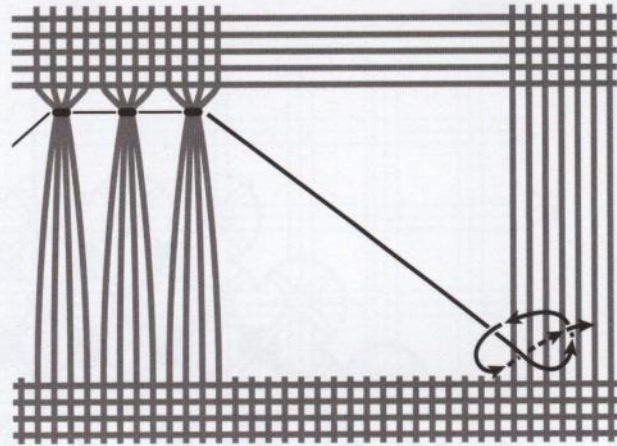


土台のかがり方

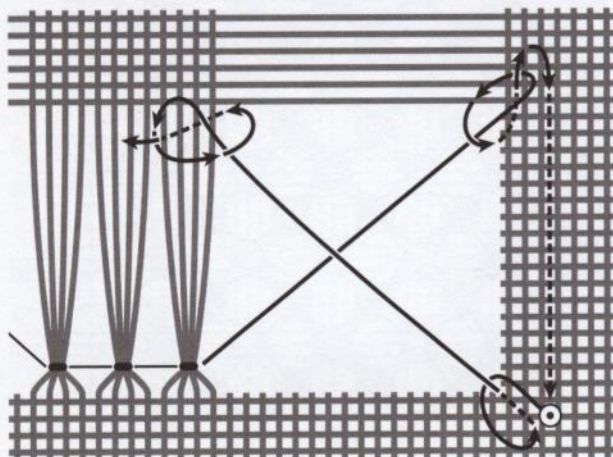
●● = 結び目



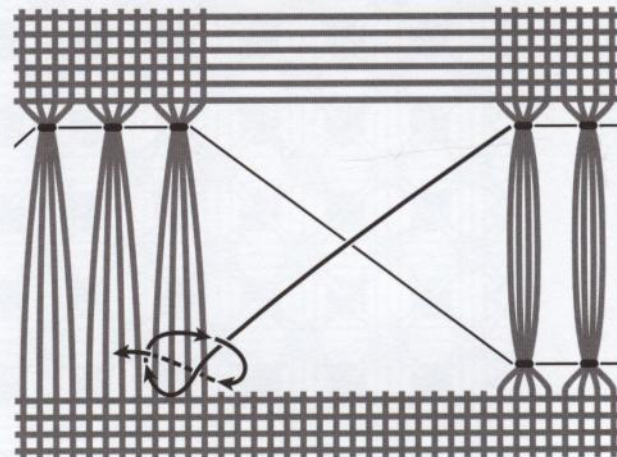
1. スタート地点Aの裏から針を出し、表から再度針を入れてしっかり固定します。



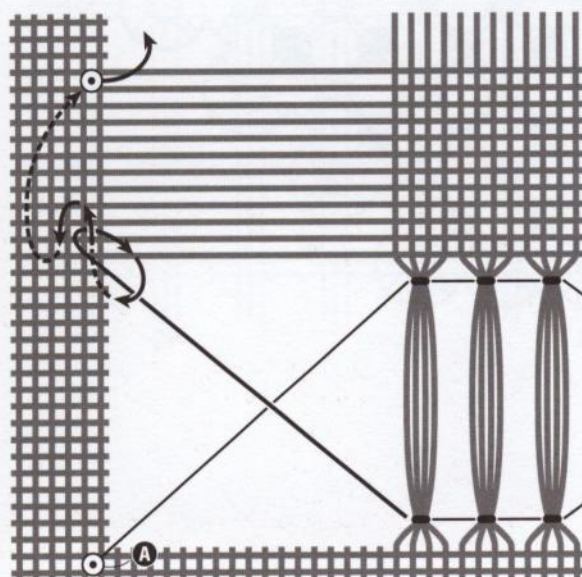
2. 残した織り糸を4本ずつ束ねながら、上下交互に右に刺し進みます。



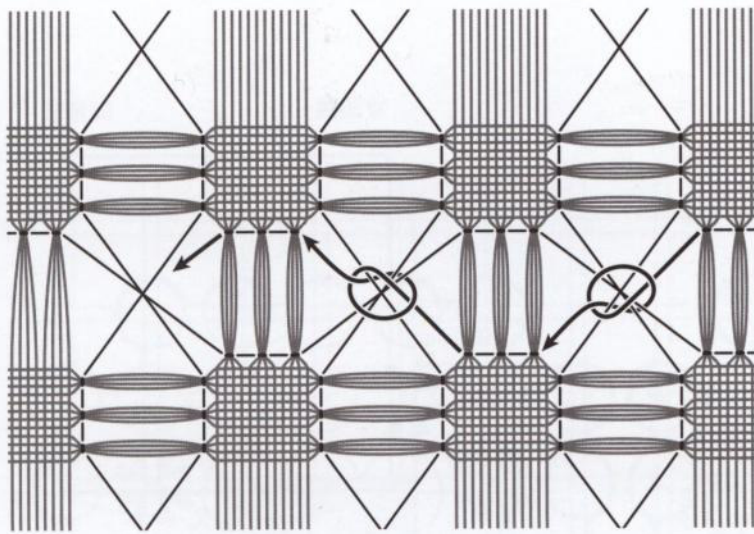
3. 端に来たら、ひと結びして糸を引き、裏から針を出し表から入れてしっかり固定します。



4. 布の裏を通して下角に移動し、2.と同様にして左に刺し進みます。



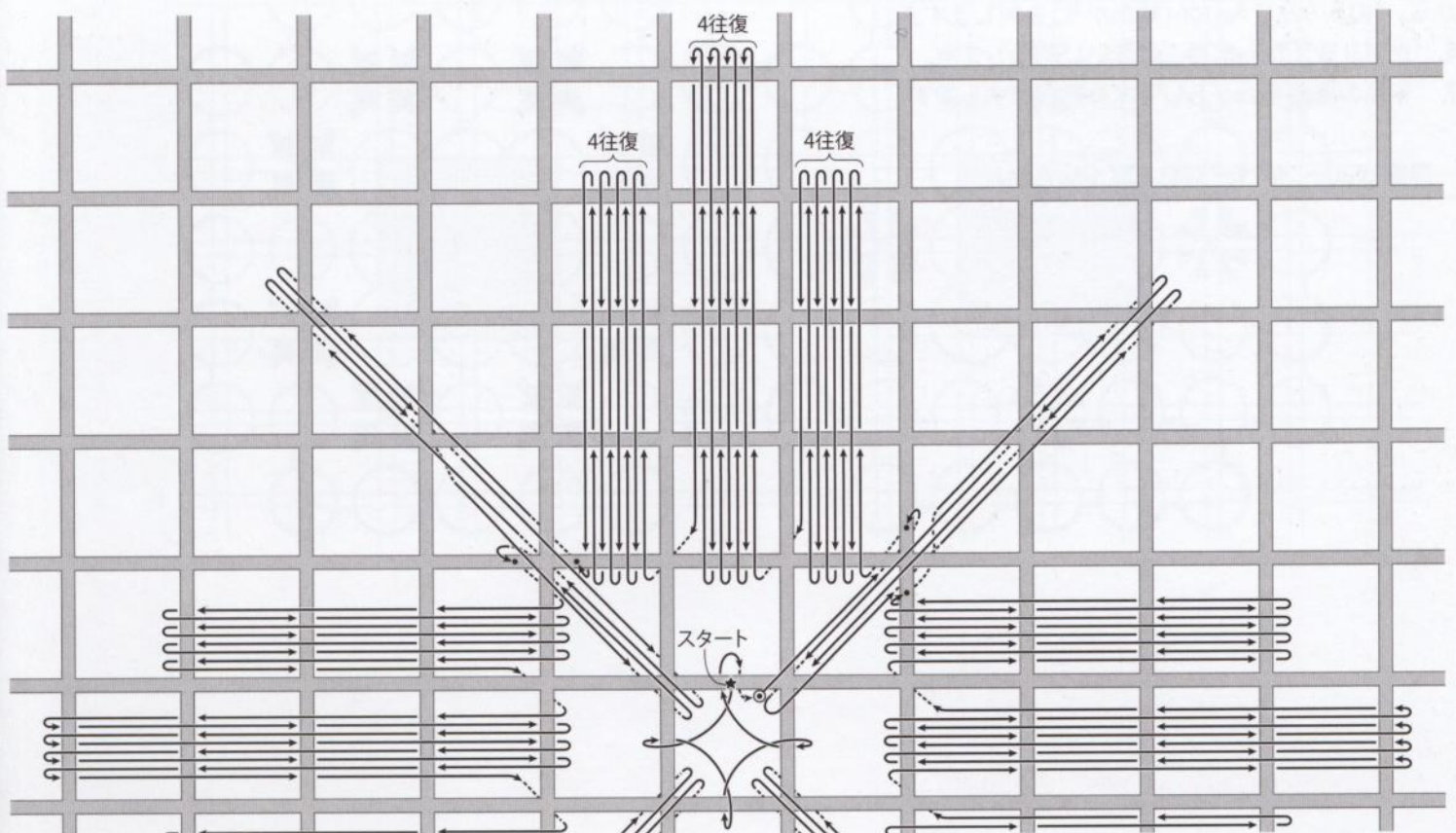
5. 左端に来たら3.の要領で布の裏を通して上の段に移動します。横方向の織り糸を全て束ねます。



6. 刺繍布の向きを90°変えて1.~5.と同様にして縦方向の織り糸を束ねます。その際、マス中央に交差している渡り糸3本をひと結びしながら刺し進みます。

リングピロー p.60 ~ p.63 の 花モチーフの刺し方

1. スタート地点★に裏から針を出して隣に針を入れ、1マスの精霊かがりをします。
2. 続けて●に針を出して図のように織り糸を交互にすくいながら反時計回りに刺し進みます。
3. 終わりの糸は●に裏から出し、隣に表から入れて糸始末をします。



コースター …… 口絵 8 ページ

材料

刺繍布／麻布(1cm辺りの織り糸が縦14本×横17本)

白 34×34cm

刺繍糸／DMCコットンパール NO.8 NO.12

白(BLANC)

できあがりサイズ

1枚 約13×13cm

作り方

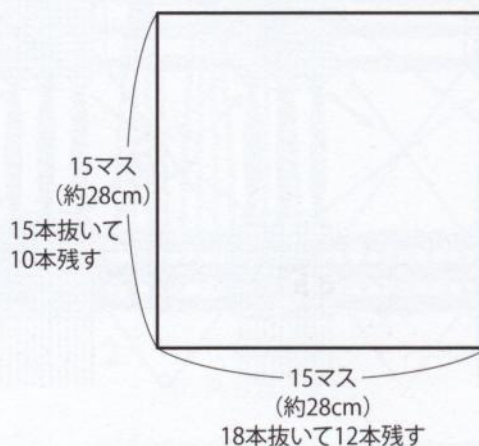
1. 1枚の布から4枚のコースターを作ります。布の織り糸を抜きます。縦は15本抜いて10本残すを繰り返し15マス、横は18本抜いて12本残すを繰り返し15マス作りますが、上下左右から3マス、中央5マスを刺繍部分とし、コースターそれぞれの中央4マス分の布を残します。
2. 中央に残した布の布端から5本目の織り糸を抜いて espigueta(布端かがり)を刺します。
3. 布を木枠に張り、土台のかがりをします。
4. 配置図を参照して Redondo (一重の丸) と Margarita、FlorBでかがります。その場合、一重の丸を全てかがってから NO.8の糸で花モチーフをかがります。

→44、47、49ページ参照

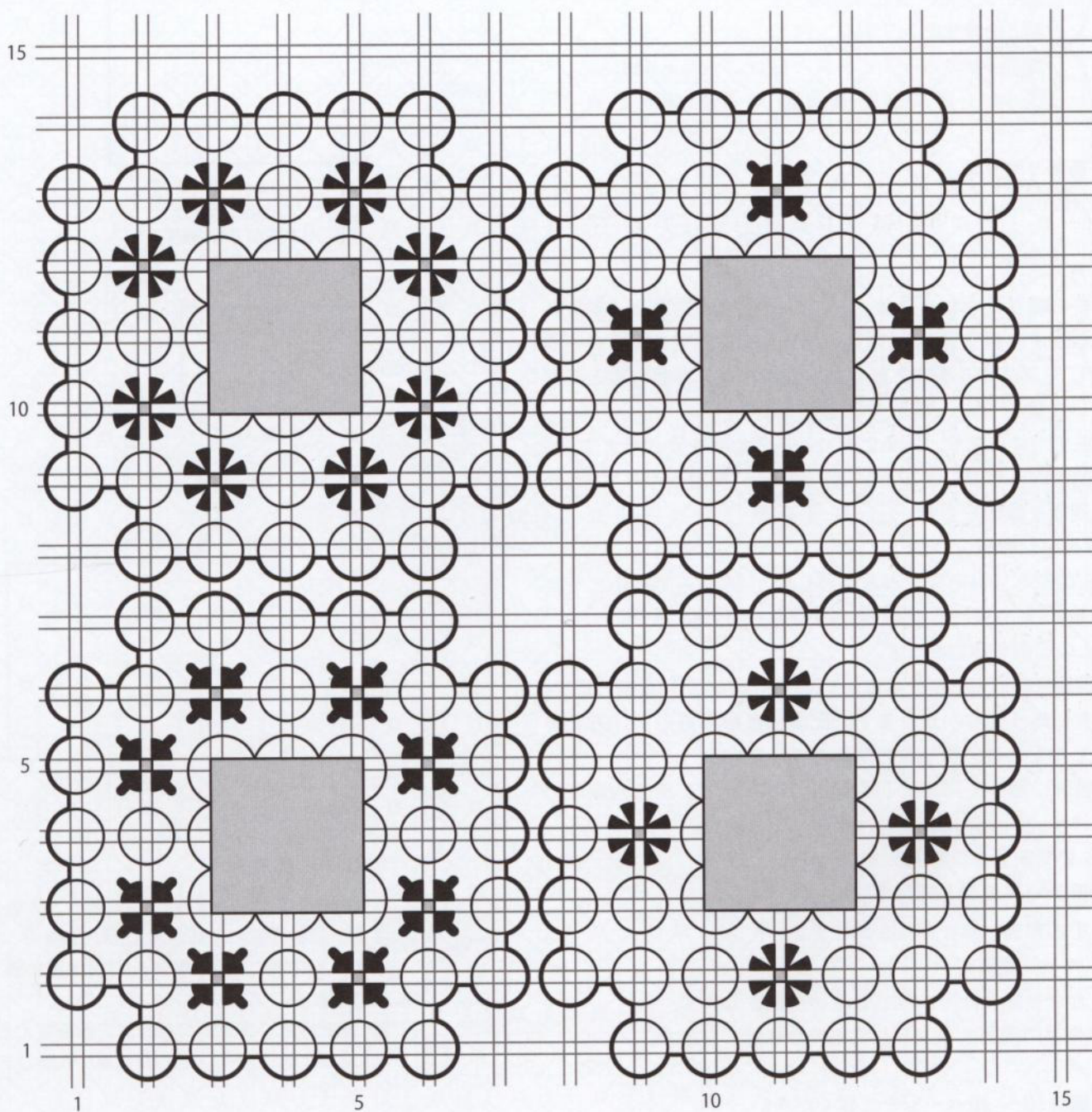
5. コースターそれぞれの外周に刺繍糸を沿わせ補強してから、NO.8の糸で festón(縁かがり)を刺します。
6. かがり終わったら木枠ごと洗い、乾かします。
7. 作品の周囲をカットして木枠からはずします。

→詳細は30～40ページをご覧ください。

寸法図



配置図



リングピロー 口絵 14、15 ページ

材料

刺繍布／麻布(1cm辺りの織り糸が縦20本×横23本)
 白 or ピンク or 黄色 30×50cm
 刺繍糸／DMC コルドネススペシャル NO.70 白(BLANC)
 その他／綿サテン地 白 22×30cm、
 幅5mmのサテンリボン 白 120cm、
 直径4mmのパールビーズ 白 or ゴールド 4個、
 丸小ビーズ 白パール適量 手芸用化繊わた

できあがりサイズ

約 12×22cm

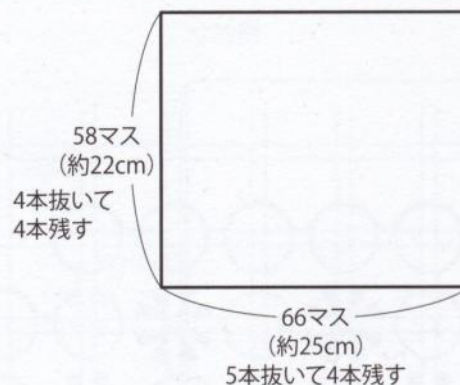
作り方

1. 布の織り糸を抜きます。ピローを包む布の縦は4本抜いて4本残すを繰り返して58マス、横は5本抜いて4本残すを繰り返して66マス作ります。飾り布も縦横ピローを包む布と同様に抜いて縦27マス、横51マスを作ります。
 2. 布を木枠に張り、始めにピローを包む布をかがります。
 3. 配置図を参照して Punto de espíritu(精霊かがり)でかがり、周囲を縁取ります。
- 46ページ参照
4. 3.の空きスペースをひと結びしながら(好みで丸小ビーズを通して)斜め線状に línea(土台かがり)をします。
 5. 4.の周囲を縁取ります。
 6. 周囲を縁取った糸を芯にして festón(縁かがり)を刺します。
 7. 次に飾り布をかがります。配置図と輪郭糸のかけ方を参照して糸をかけ、飾り布の輪郭を作ります。
 8. 輪郭に沿って Rombo(菱形)でかがります。その内側でできたスペース全体に巻き付けかがりをします。
 9. 8.に花モチーフを刺します。
- 花モチーフの刺し方は 57 ページ
10. 7.の輪郭に縁かがりを刺します。
- 71ページ参照
11. かがり終わったら木枠ごと洗い、乾かします。
 12. 作品の周囲をカットして木枠からはずします。

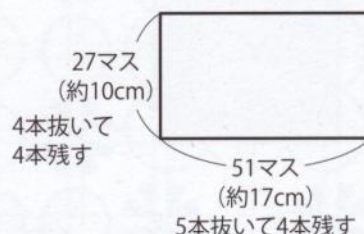
→詳細は 30 ～ 40 ページをご覧ください。

寸法図

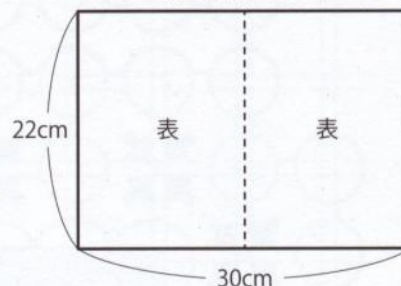
ピローを包む布 (麻)



飾り布 (麻)



ピロー布 (綿サテン)



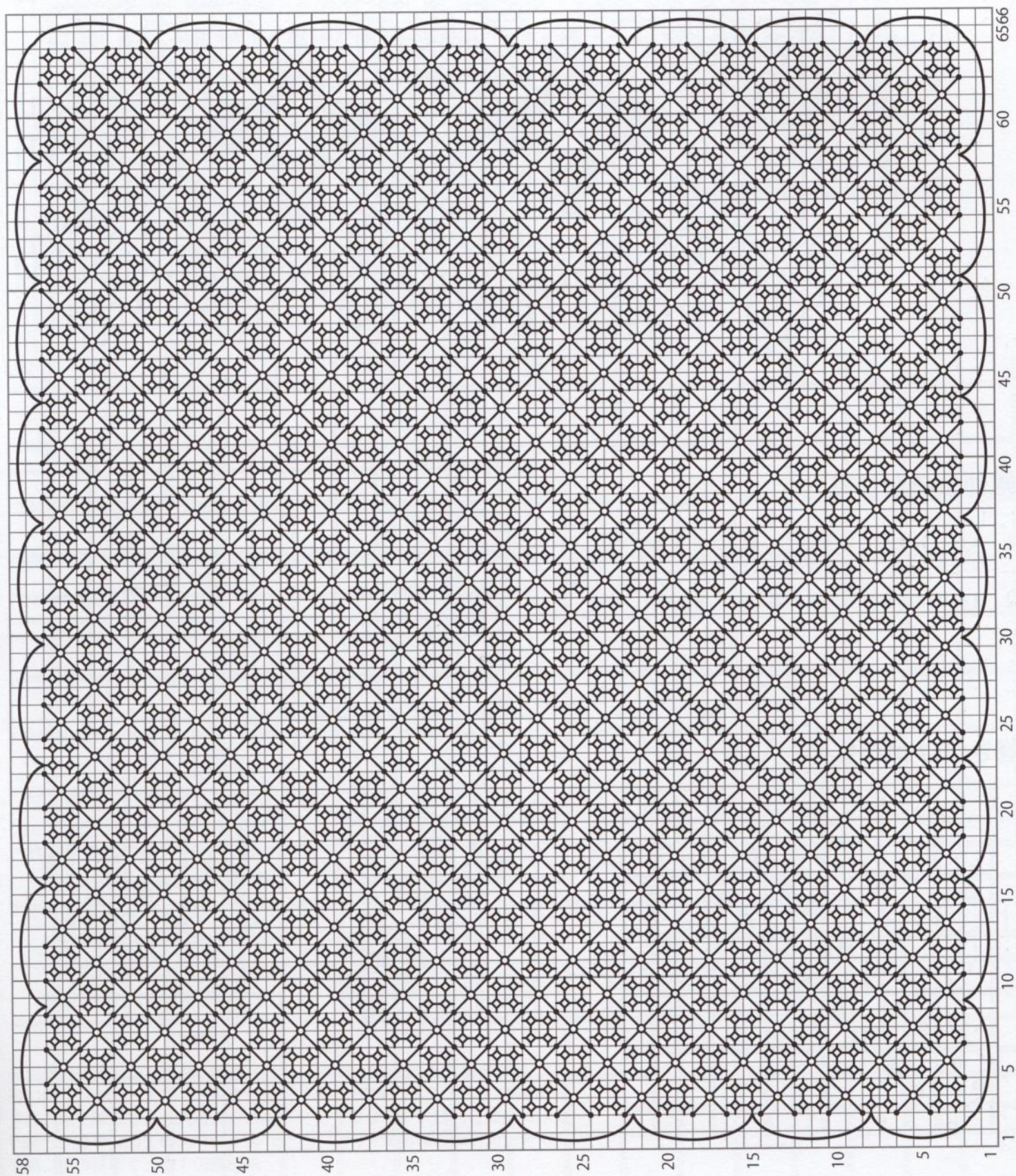
ピローの作り方

1. 綿サテン地の長辺を二つに折り、中表に合わせて上下辺と片脇の布端から1.5cm内側をミシンで縫います。その際、1辺の中央を7、8cm縫い残して返し口にします。
2. 表に返し、アイロンをかけて形を整えます。
3. 化繊わたを詰め、返し口をまつり閉じます。

仕立て方

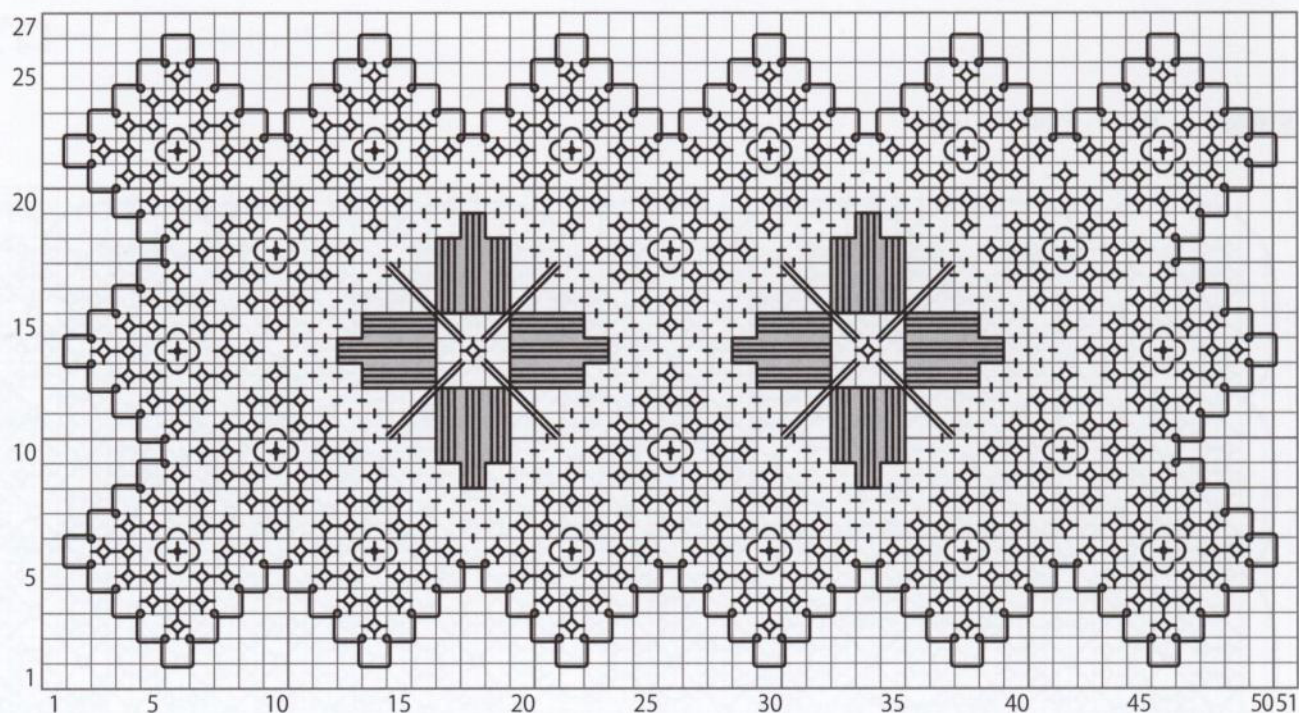
1. ピローを包む布でピローを包み、両脇と後ろ中央の縁かがりにリボンを通して閉じます。
2. 1.の中央に飾り布を重ね、Florの中央に蝶結びにしたリボンをパールビーズで留め付けます。留め糸を後面まで通して後ろにもパールビーズを留め付けてくぼみをつけます。

配置図 ピローを包む布（麻）



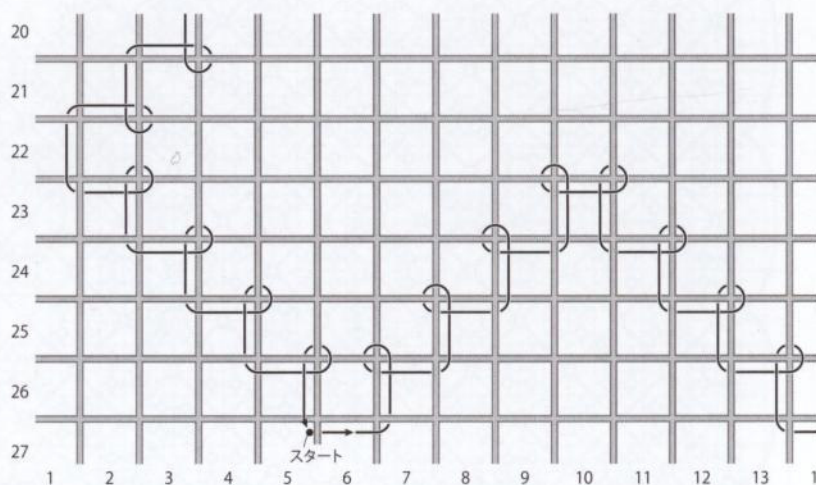
配置図

飾り布 (麻)

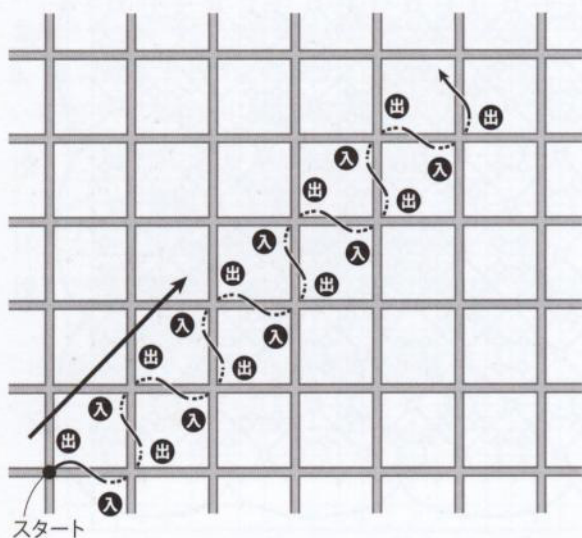


輪郭糸のかけ方

1. スタート地点に針を出し、織り糸を交互にすくいながら反時計回りにかがっていきます。
2. 終わりはスタート地点の隣に針を入れます。



巻き付けかかり



1. スタート地点に裏から針を出し、織り糸に絡めるように針を出し入れして右斜め上に刺し進みます。



2. 角で方向を変える場合は、織り糸右端の1本と2本目の間に裏から針を出し、右のマスをすくって左側に刺し進みます。

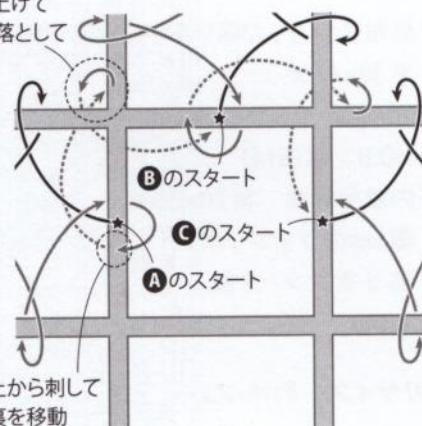


3. 1周目の終わりはスタート地点の下を通し、スタート地点の隣に表から針を入れます。織り糸の裏を通してマスの上側に移動し、織り糸左端の1本と2本目の間に裏から針を出し、左のマスをすくって右側に刺し進みます。

Rombo (菱形) の刺し方

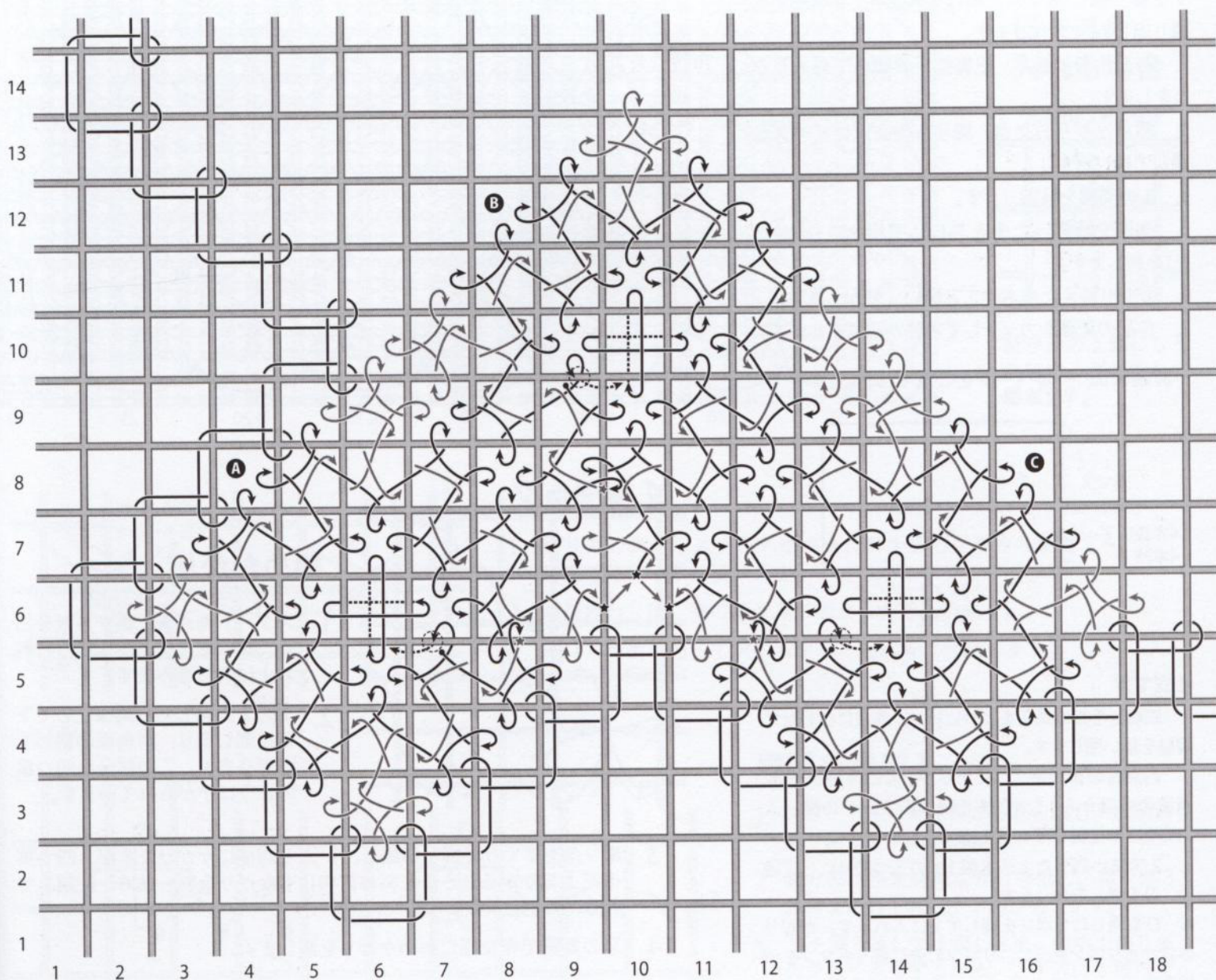
1. Punto de espíritu (精霊かがり) の要領で糸つぎをしながら3つの菱形を続けて作ります。
2. **A**のスタート地点★から刺し始め、→の部分进行し、→の部分から★から刺し戻ることので精霊かがりが完成します。その際、途中で菱形中央に残った織り糸を縦横1回ずつ結びます。
3. 図のようにして**B**のスタート地点★に移動し、同様にかがります。**C**のスタート地点からも同様にかがります。

裏から刺し上げて
左のマスに落として
裏を移動



上から刺して
裏を移動

花モチーフの刺し方は→ P57



ポーチ 口絵 17 ページ

材料

刺繍布／麻布(1cm辺りの織り糸が縦14本×横17本)

紫 30×44cm

刺繍糸／DMC コットンパール

NO.8 紫(814)

その他／内袋用麻布 紫 20×36cm、

幅5mmのサテンリボン エンジ150cm、

飾りボタン 2個、

丸小ビーズ 玉虫色適量

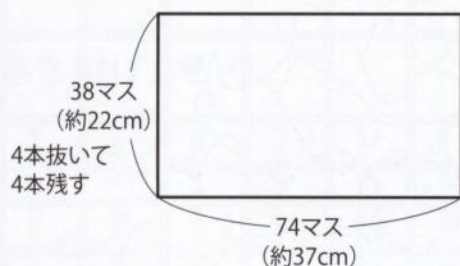
できあがりサイズ 約18×20cm

作り方

1. 布の織り糸を抜きます。縦は4本抜いて4本残すを繰り返し38マス、横は5本抜いて4本残すを繰り返し74マス作ります。
2. 布を木枠に張り、配置図を参照して斜めかがりをします。
3. 斜めかがりの交点、織り糸の交点にビーズを通して結びます。
4. 3.の周囲を縁取ります。
5. 周囲を縁取った糸を芯にして festón (縁かがり)を刺します。
6. かがり終えたら木枠ごと洗い、乾かします。
7. 作品の周囲をカットして木枠からはずします。

→詳細は30～40ページをご覧ください。

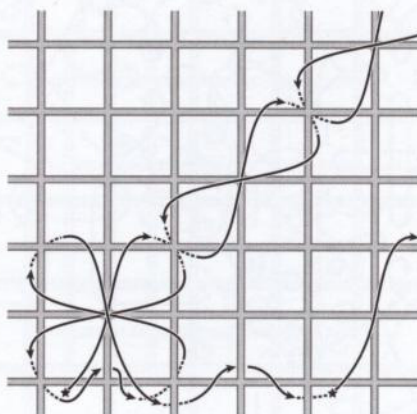
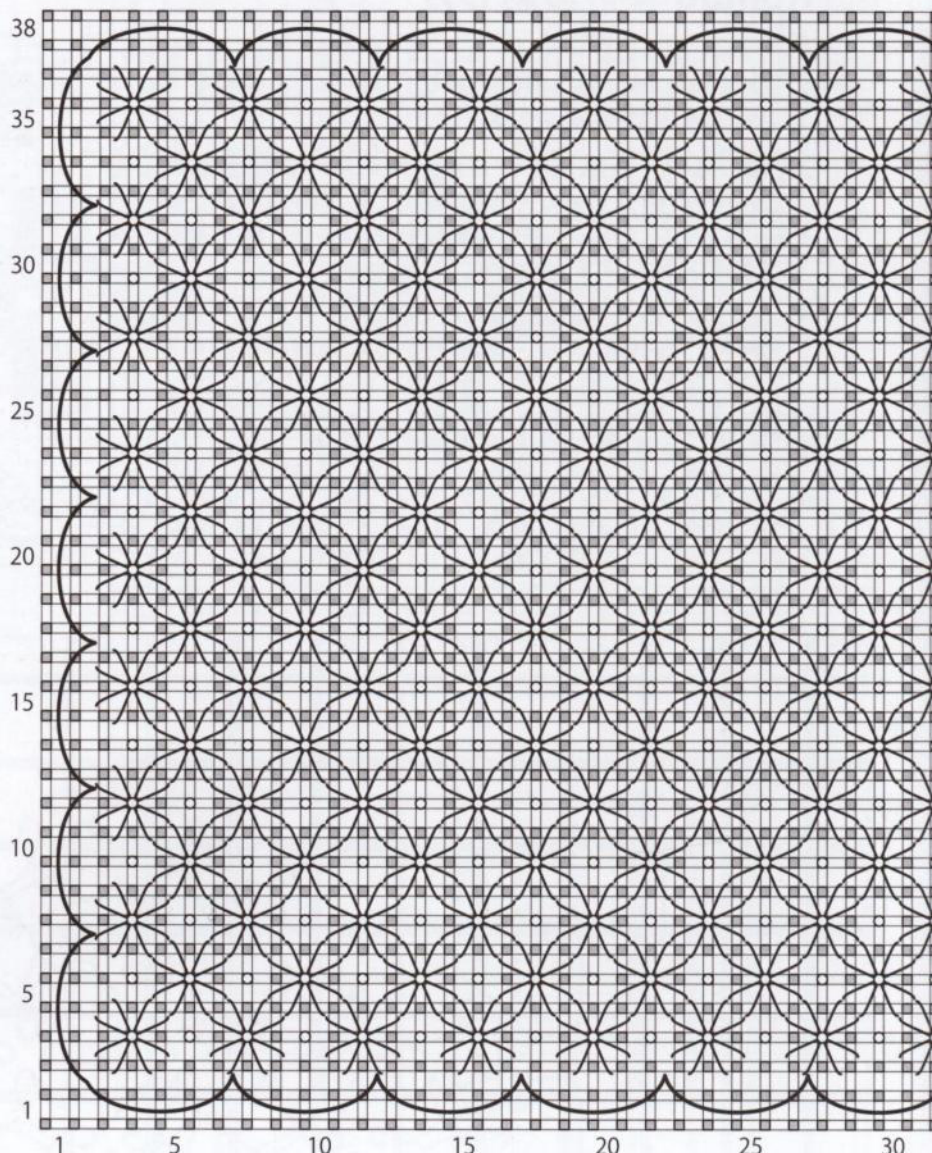
寸法図



仕立て方

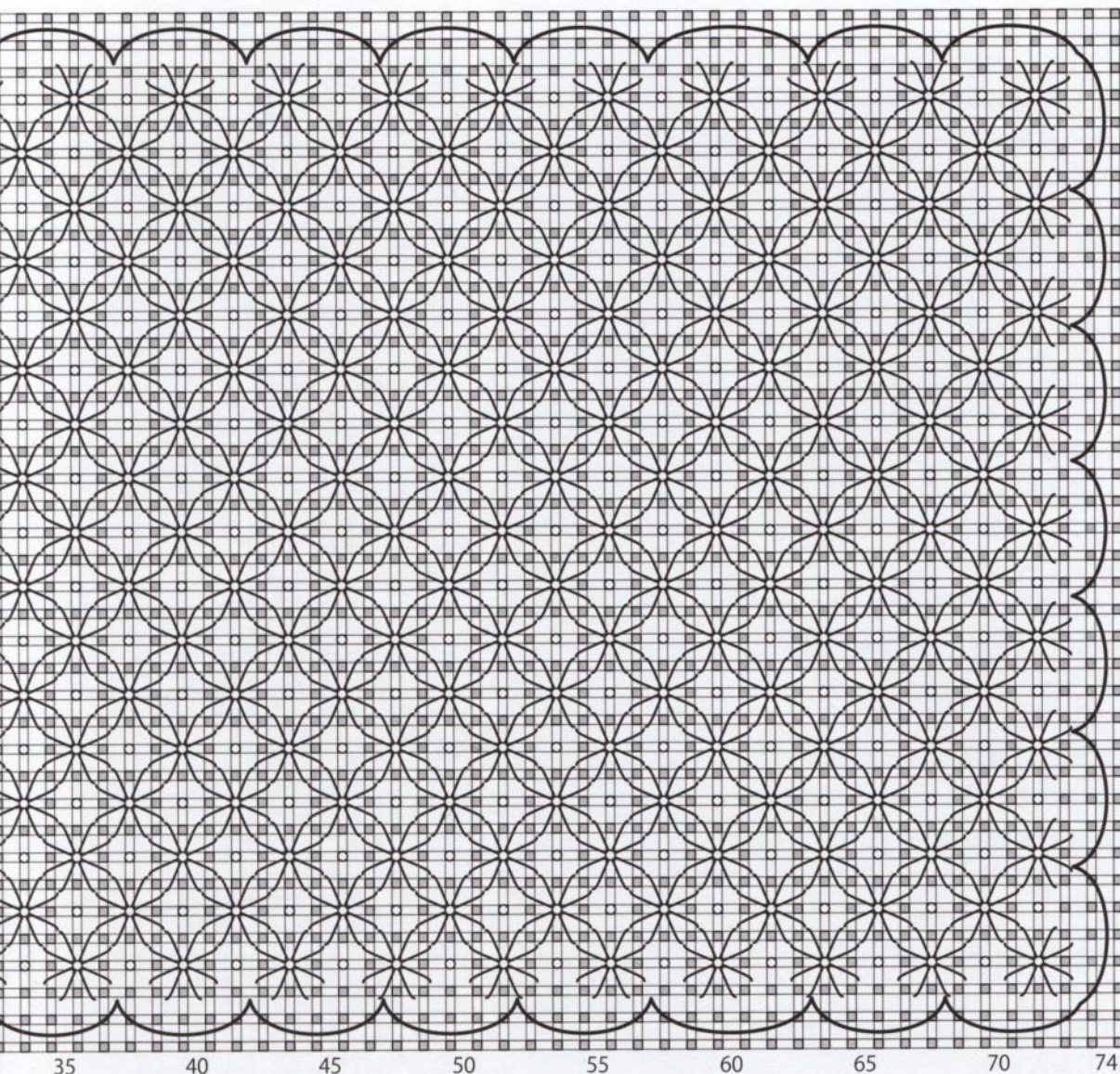
1. 刺繍した布の長辺を二つに折り、外表に合わせて両脇を縫い閉じます。
2. 内袋布の長辺を二つに折り、中表に合わせます。両脇の布端から1.5cm内側を縫います。その際、入れ口側3cmは縫わずに残します。
3. 2.で縫い残した上辺を幅1cmの三つ折りにして縫い、ひも通しを作ります。
4. ひも通しにリボンを通して1.に入れます。かがりの穴からリボンを出し、リボンの先に飾りボタンをつけます。

配置図



斜めかがり

1. スタート地点★に裏から針を出し、織り糸をすくいながら右斜め上に刺し進みます。
2. 上辺まで刺したら同様にして下辺に刺し戻り、対角線の斜めをかがります。この部分は四つ葉のかがりにかかっています。
3. 織り糸をすくって横に移動し、1. 2.と同様にかがりますが、四つ葉の左上をかがるときに左斜め方向にもかがりを刺し進め、左端まで刺したら刺し戻ります。
4. 3.の要領で布全面に斜めかがりを刺します。

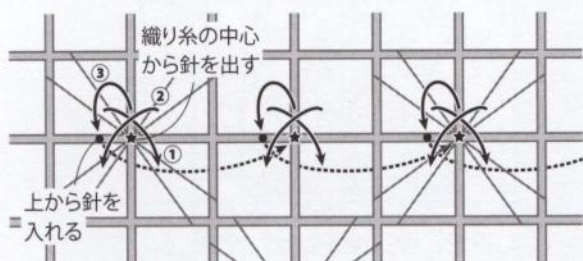


ビーズを入れる場合

ビーズを入れる場合



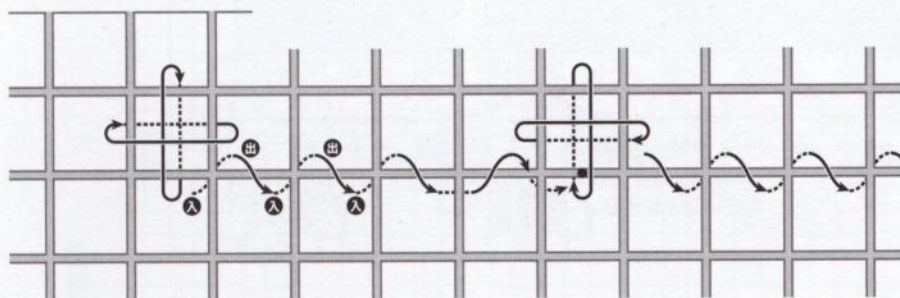
結び目の上側になる糸にビーズを通して結びます。



交点を結ぶ

1. 織り糸の裏からスタート地点★に針を出し、表から針を入れて①②の順に結びます。
2. 結び終わりは、横の織り糸に表から針を入れます。
3. 織り糸の裏を通って次のスタート地点★に移動します。

★=スタート



周囲を縁取る

1. スタート地点●に裏から針を出し、縦横の織り糸を十字に結びます。
2. 織り糸に糸を絡めながら移動し、織り糸3束分をあけて次の十字結びをします。
3. 2.を繰り返して1周します。途中で織り糸の束数を調整するため、上下辺に1箇所ずつ4束あける部分を作ります。

テーブルランナー ……… 口絵 20、21 ページ

材料

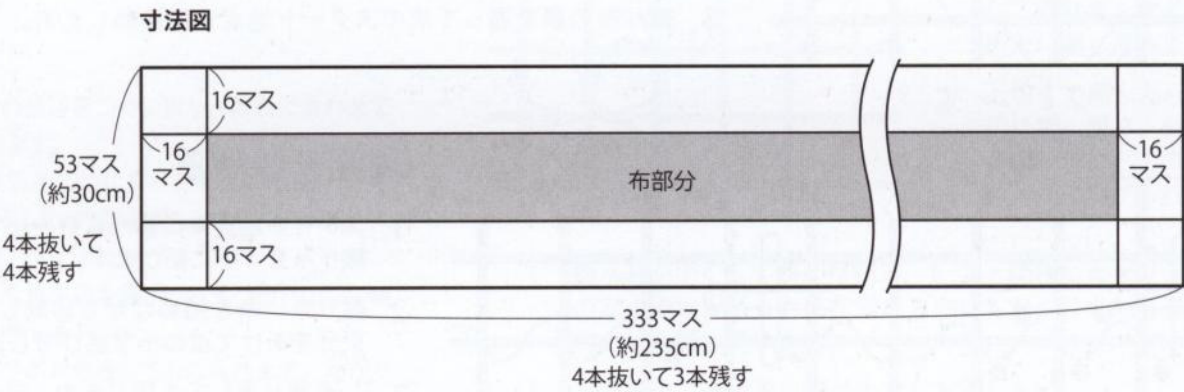
- 刺繍布／麻布(1cm辺りの織り糸が縦11～12本×横14～15本) グリーン 36×240cm
- 刺繍糸／DMCコットンパール NO.8 生成り(ECRU)
- その他／丸大ビーズ ゴールド 適量

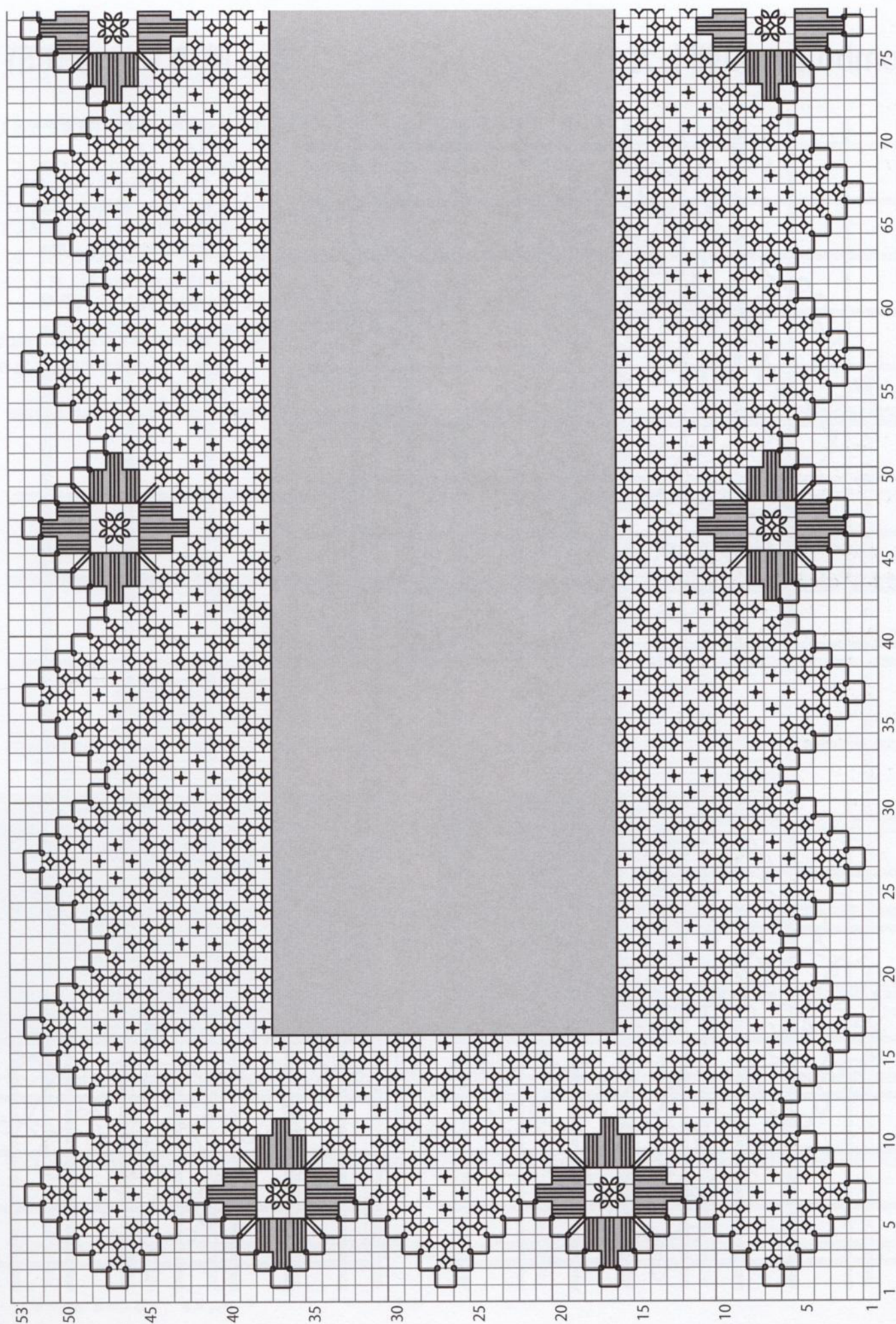
できあがりサイズ 約 30×235cm

作り方

1. 布の織り糸を抜きます。縦は4本抜いて4本残すを繰り返して53マス、横は4本抜いて3本残すを繰り返して333マス作りますが、上下辺から16マス、左右辺から16マスを刺繍部分として中央に布を残します。
 2. 中央に残した布の周囲に espigueta (布端かがり) を刺します。布目が粗いので、残した布の外周から4本目の織り糸を抜いてかがります。
 3. 布を木枠に張り、土台のかがりをします。
 4. 配置図と花モチーフの図のように刺繍部分の輪郭を縁取ります。リングピロー「輪郭糸のかけ方」62ページ参照
 5. 配置図を参照し、輪郭に沿って Rombo (菱形) と Flor (花) でかがります。その際、好んで菱形中央の十字結びに丸大ビーズを入れます。
 6. 4. の輪郭に festón (縁かがり) を刺します。
- 71 ページ参照
7. この作品は長さがあるので、かがり終えた部分を木枠に巻きつけて、次の部分に刺し進みます。

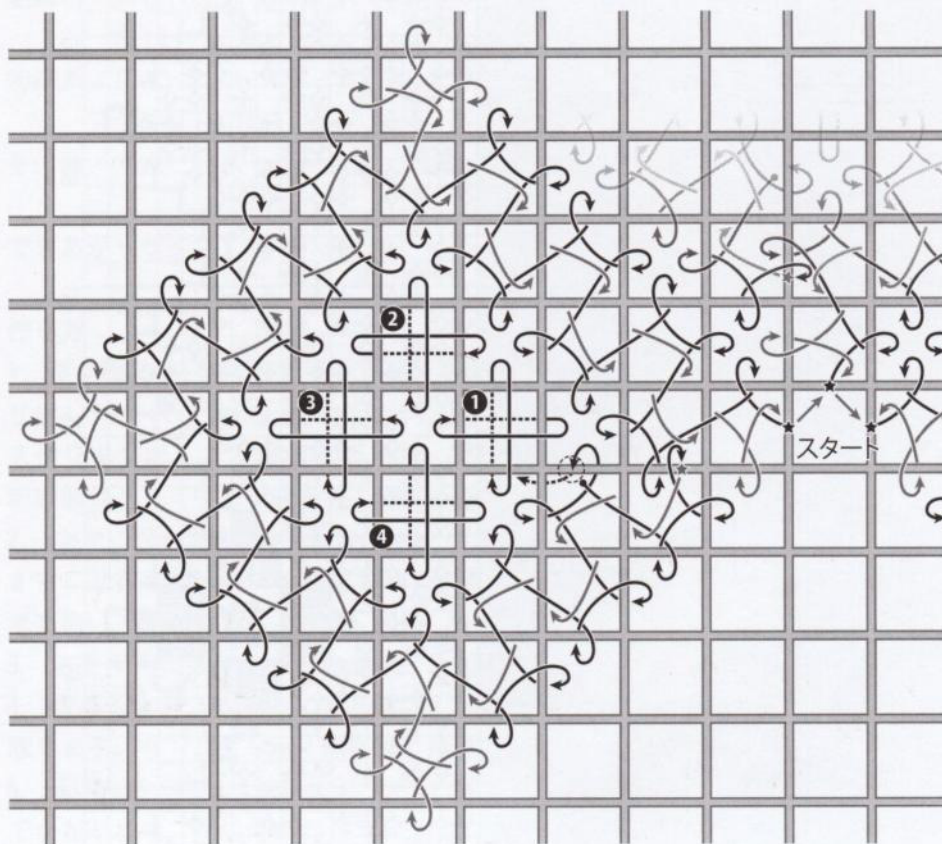
→詳細は30～40ページをご覧ください。





Rombo (菱形) の刺し方

図 1



1. Punto de espíritu (精霊かがり) の要領で菱形を作ります。
2. スタート地点★から刺し始め、→の部分で刺し進み、菱形中央に残った織り糸に縦横十字に糸をかけて結びます。4箇所結び目ができます。図1
→の部分★から刺し戻ることによって精霊かがりが完成します。図1
3. 内側の布に接する部分は、espigueta (布端かがり) の穴を利用して図のようにかがります。図2、3

★=スタート ★=Uターンのスタート

図 2

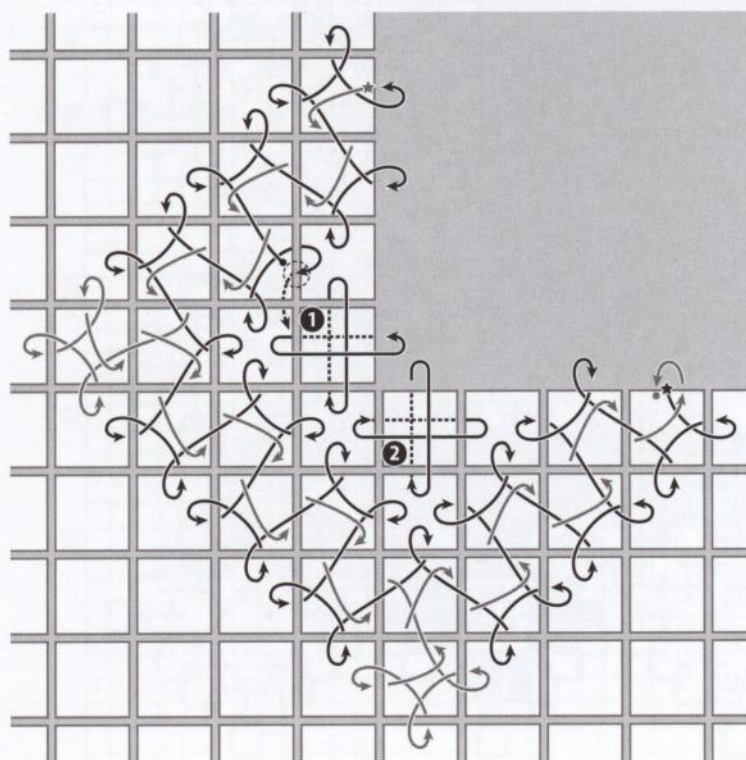
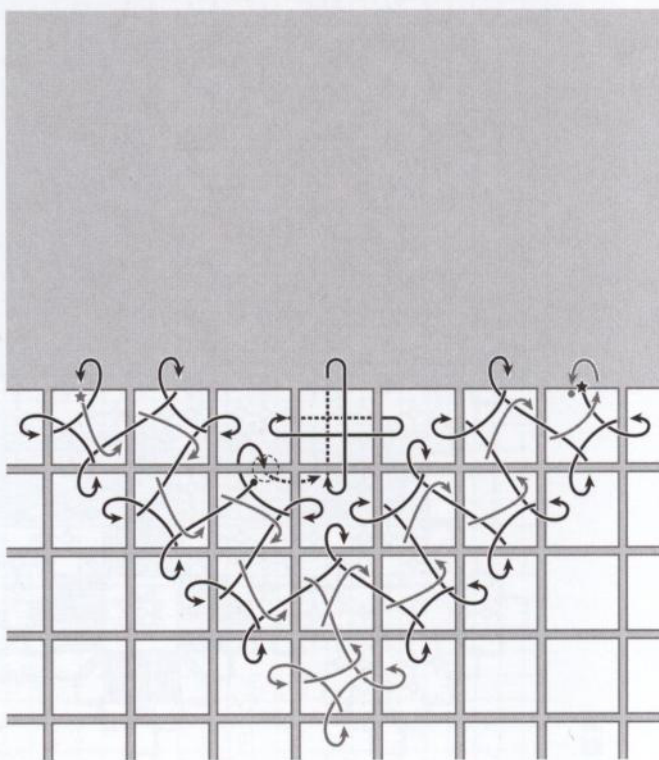


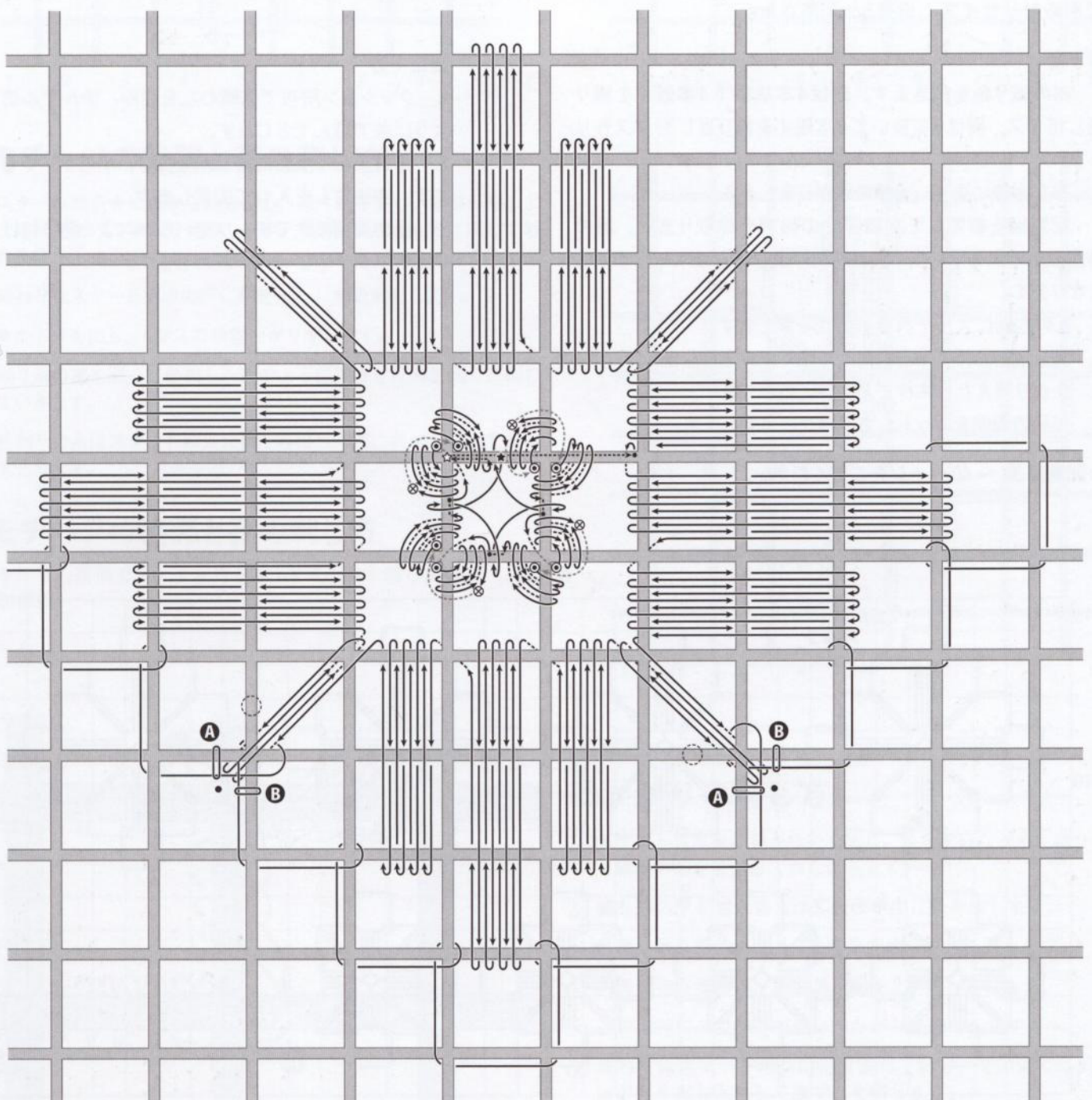
図 3



花モチーフの刺し方

1. スタート地点★に裏から針を出して隣に針を入れ、1マスの精霊かがりをします。
2. 続けて1.の周囲に花芯を刺します。●から針を出して図のように織り糸を交互にすくって刺し進みます。
3. 4つ目の花芯を刺したら、織り糸の裏を通して移動して花卉を時計回りに刺していきます。
4. 終わりの糸はスタート地点に裏から出し、隣に表から入れて糸始末をします。

●●部分の festón (縁かがり) は●●に来たら、○印の織り糸の内側1本目と2本目の間に裏から糸を出し、内側隣りのマスに入れて●●に出し、●●に続きます。



● = 出る ● = 入る ★ = スタート

ピンクッション……………口絵 29 ページ

材料(1点分)

刺繍布／麻布(1cm辺りの織り糸が縦14本×横17本)

生成り16×23cm

刺繍糸／DMCコットンパール NO.12 オリーブ(640)

サーモンオレンジ(758)ページユ(644)

クリーム(3823)

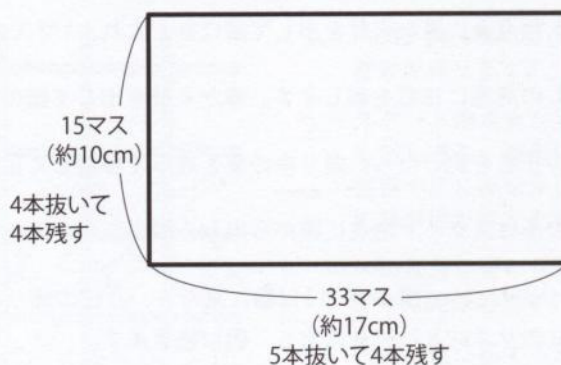
その他／直径4.5cm(内径2.5cm)高さ3.5cm

(深さ2～2.5cm)の木製の器、

クッション用木綿地 6×6cm、手芸用化繊わた、

手芸用接着剤、縫い糸、飾り用ボタン、ビーズ

寸法図



できあがりサイズ 直径5cm×高さ4cm

作り方

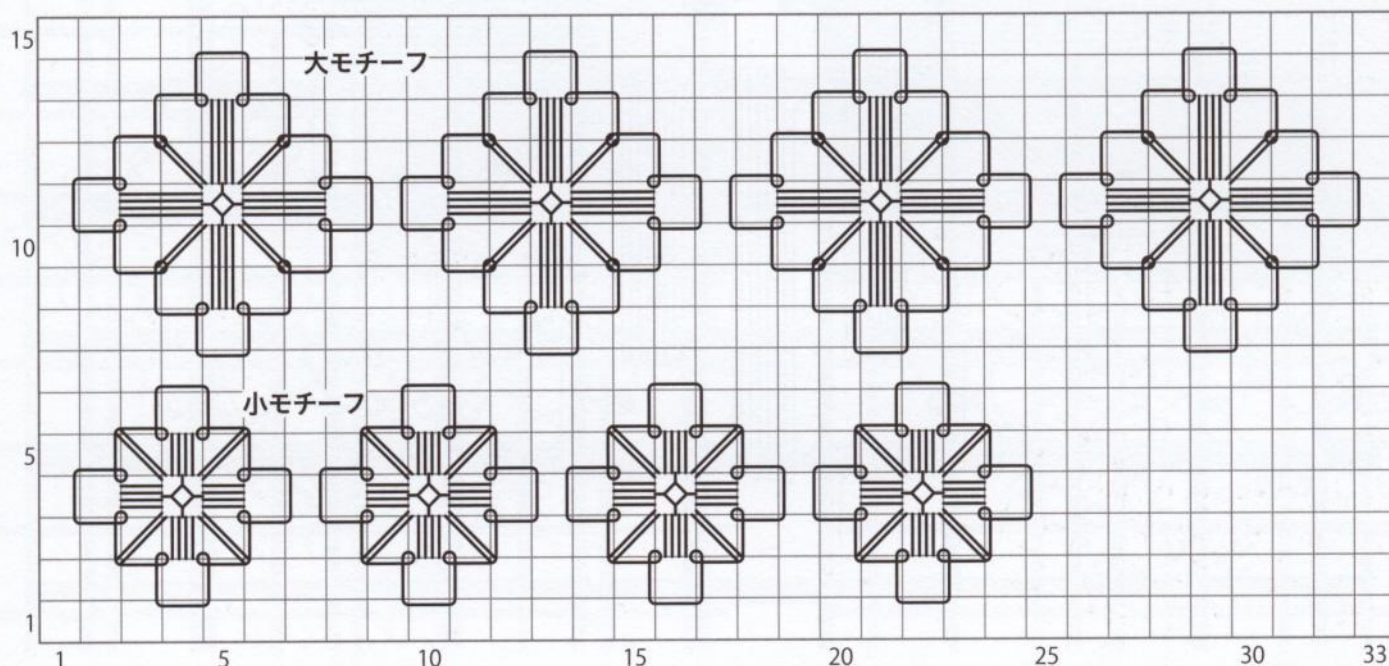
1. 布の織り糸を抜きます。縦は4本抜いて4本残すを繰り返し15マス、横は5本抜いて4本残すを繰り返し33マス作ります。
2. 布を木枠に張り、土台のかがりを行います。
3. 配置図を参照して刺繍部分の輪郭を縁取りします。器の外側に貼る大モチーフ4枚と内側に挟み込む小モチーフ4枚になります。
4. 3.の内側に大小それぞれの花を刺します。
5. 織り糸と輪郭の糸を芯にして縁かがりを刺します。
6. かがり終わったら木枠ごと洗い、乾かします。
7. 作品の周囲をカットして木枠からはずします。

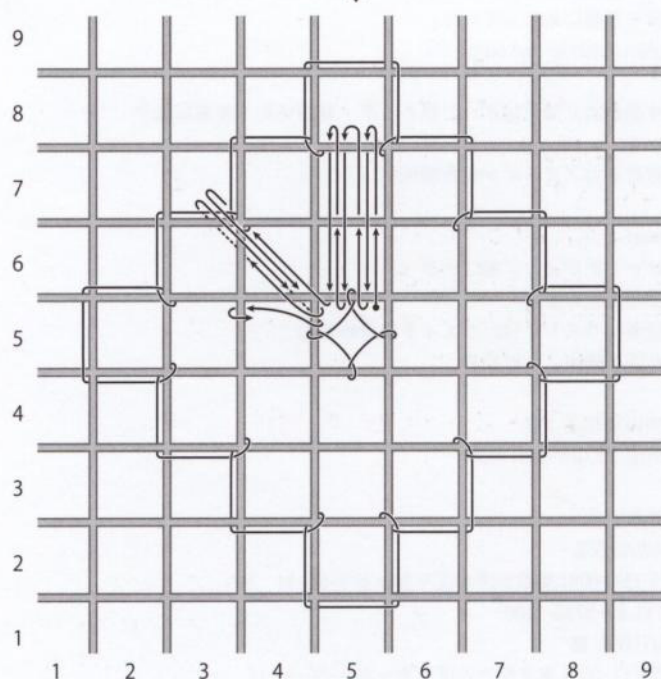
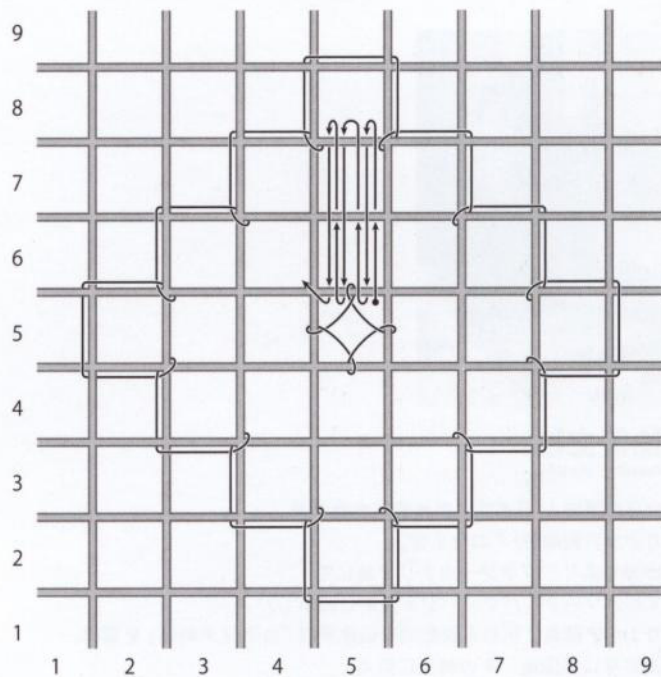
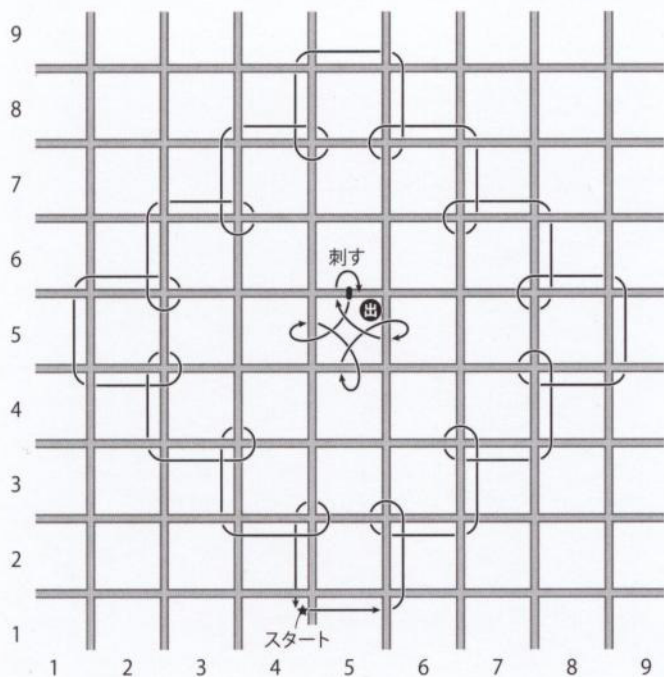
→詳細は30～40ページをご覧ください。

仕立て方

1. クッション用布で化繊わたを包み、テルテル坊主のように糸で結んでとじます。
2. 器の底と内側面に接着剤を塗り、小モチーフを貼ります。中央に1.を入れて固定します。
3. 器の周囲に大モチーフをバランスよく貼り付け、飾り用のボタンやビーズで装飾します。

配置図



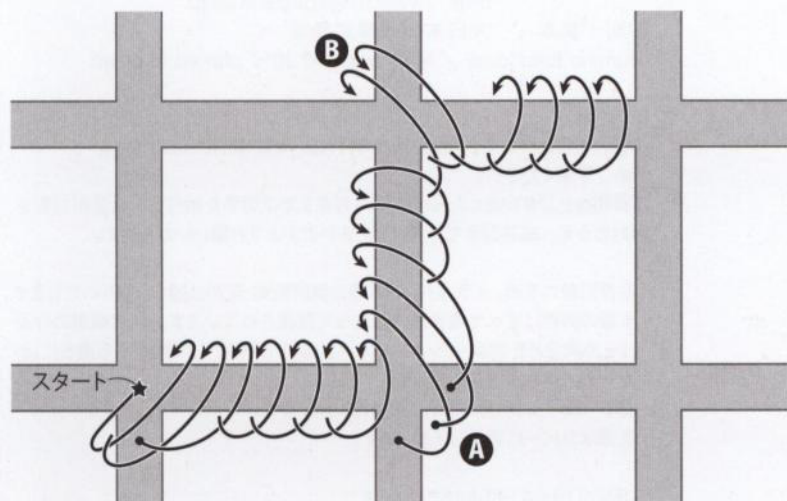


大モチーフの輪郭と花の刺し方

1. スタート地点★に裏から針を出し、織り糸をすくいながら図のように糸をかけて輪郭を縁取ります。輪郭は4枚とも先に刺しておきます。
2. 終わりはスタート地点の隣に針を入れ、糸始末をします。
3. ●から針を出し、1マスの精霊かがりをします。
4. 織り糸の裏を通して移動し、図のように花弁を反時計回りに刺していきます。
5. 終わりの糸はスタート地点に裏から出し、隣に表から入れて糸始末をします。

小モチーフの輪郭と花の刺し方

大モチーフの要領で、上下左右とも1マス小さく刺します。
配置図参照



縁かがりの刺し方

1. スタート地点★に裏から針を出し、糸をかけながら、織り糸と輪郭の糸を芯にして刺し進みます。
2. 織り糸の束を拾う場合は、束の中央に針を出します。
3. 外角を拾う場合は、●3箇所Aを拾って角を出します。
4. 内角を拾う場合は、同じ場所Bを2度刺し重ねます。
5. 花の花弁にぶつかる部分は縁かがりを飛ばします。
6. 終わりはスタート地点に再度重ねて刺し、その近くに2回ほど針を出し入れして裏で糸を切ります。



徳留文穂

Fumiho Tokudome

公益財団法人 日本手工芸作家連合会会員。
カナリア刺繍 My F の会主宰。
1999 年より、グラン・カナリア島にて
マルガリータ・パデージャ女史に師事し、
カナリア諸島に伝わる独創的な伝統手芸「カナリア刺繍」を習得。
2003 年に帰国後、その普及に努め、
現在は日本アートクラフト協会上野本校、
有隣堂戸塚カルチャーセンターほか、各地に教室を持ち、
日々指導にあたっている。
www.canaria-myf.com/

作品協力／安部郁子 三瓶もと子 高西邦子 棚瀬磨祐子

取材協力／スペイン政府観光局

staff

ブックデザイン／堀江京子

撮影／三好宣弘

図案イラスト／(株)ウエイド手芸制作部

企画・編集／大割里美

木杵制作／J M

<http://jm-surf.com/>

撮影協力

AWABEES

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-50-11 5F

TEL.03-5786-1600

UTUWA 器

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-50-11 1F

TEL.03-6447-0070

Margarita & Fumiho のカナリア刺繍

2018 年 1 月 11 日 初版発行

著 者 徳留 文穂

発行人 伊藤英俊

発行所 株式会社マガジンランド

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-7

東京堂錦町ビル 5F

販売部 TEL03-3292-3221 FAX03-3292-3222

編集部 TEL03-3292-3226 FAX03-3292-3582

<http://www.magazineland.co.jp>

印刷・製本 大日本印刷株式会社

©fumiho tokudome / Magazineland 2017 printed in japan

■お問合せ

本書の内容について、電話でのお問い合わせには応じられません。

予めご了承ください。

ご質問などございましたら、往復ハガキまたは切手を貼付した返信用封筒を
同封のうえ、編集部までお送りくださいますようお願いいたします。

- ・本書記載の写真、イラスト、記事等の無断転載・使用は固くお断りいたします。
- ・本書の内容はすべて著作権法によって保護されています。本紙掲載の作品・作り方図などを店頭・インターネット上などで商品として販売する場合には著作者の許諾が必要となります。
- ・落丁・乱丁は発行所にてお取替えいたします。
- ・定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-86546-174-9